



大阪歯科大学

兵庫県同窓会報

'95秋

53

も く じ

この経験を将来の備えとして……………村井会長……………	1
栄えある叙勲・褒章……………	2
平成7年度第1回総会……………	3
平成7年度第1回役員会……………	6
平成7年度役員名簿……………	10
特集 阪神・淡路大震災から……………	12
分会支部だより……………	15
クラス幹事だより……………	19
母校ニュース……………	35

この経験を将来への備えとして



大阪歯科大学
兵庫県同窓会長

村井俊郎

“まさか”と誰もが予想しなかった都市直下型大地震が阪神・淡路地区で発生したのであるから、ある程度の混乱は止むを得ないにしても、その被害は測り知れない程大きいものがあった。

5,400人を超える住民がなくなり、34万人のひとびとが避難所生活を強いられた。

歯科診療所も全・半壊が約500、一部損壊が1,000にも及び、被災地域内の90%の診療所が損壊したのである。

こうした被災環境の中で、住民のための応急歯科診療は関係者の大変な努力によって順調に進められた。

器械・器具が転倒したり、焼失した状況の中で全国各地の歯科医師会から診療車を差し向けて頂き、当時は被災地19ヵ所にそれらを配置して、県下の歯科医師、近隣の歯科大学医局、各

地のボランティア、自衛隊歯科診療班のかたがたの奉仕によって、口腔内感染症をはじめ、義歯修理等に至る歯科診療を行うことができ、住民のかたがたから大変に感謝された。

前例のない、文献にもない局面に遭遇した歯科診療の一面であった。

また同窓会では早速に全国から義援金を募り、被災会員に配分を行った。

これらは日本歯科医師会、兵庫県歯科医師会の共済見舞金とともに会員を勇気づけた。

“災害は忘れた頃に来る”と言われるが、今回のこの経験を教訓として、それらを総括したまとめを後世のために備えておくことが大切であるとともに、被災した会員が1日も早く復興されるように同窓会としても今後とも励まし、援け合って行きたい。

栄えある叙勲・褒章

勲三等瑞宝章



村井俊郎先生

平成7年度秋の叙勲で、会長村井俊郎先生が保健衛生部門で勲三等瑞宝章を受賞された。

村井先生は、昭和19年に卒業（専門25回）、昭和23年生田区（現・中央区）に歯科診療所を開設され、以来47年余にわたり地域医療の確保、口腔衛生思想の向上発展に献身的な活動を続けてきた。昭和33年から兵歯八会の要職を歴任、日歯においても同様に、歯科界の向上発展に不断の努力を重ねた。

勲五等双光旭日章



塩見洋三先生

平成7年度秋の叙勲で、諮問委員塩見洋三先生が保健衛生部門で、勲五等双光旭日章を受賞された。

塩見先生は、昭和18年に卒業（専門24回）、昭和21年姫路市に歯科診療所を開設され、以来49年余にわたり地域医療に従事するかたわら、27年にわたり姫路市歯科医師会、兵庫県歯科医師会の要職を歴任し、さらに、学校歯科医として、学校歯科保健の向上にも尽力した。

藍綬褒章



中塚 裕先生

平成7年度春の褒章で、副会長中塚裕先生が保健衛生部門で藍綬褒章を受賞された。

中塚先生は、昭和38年長田区に歯科診療所を開設され、以来31年余にわたり、地域住民の歯科疾患の予防治療、口腔衛生思想の普及啓発に努めるかたわら、20年余にわたり兵庫県歯科医師会理事、常務理事、専務理事、副会長などの要職を歴任され、歯科界の向上発展に尽力した。

平成7年4月15日

会長、監事留任

今年度 会員大会は中止

日 時 平成7年4月15日

場 所 兵庫県歯科医師会館 5階ホール

総会は、定刻志築専務理事の司会により、小田副会長が開会のことばを述べた後、議長に伊藤副会長を選出、議長より議事録署名人に川村（西宮）四柳（垂水）両氏を氏名して村井会長の挨拶になった。

《村井会長挨拶》

役員会に引き続き定時総会を開催しましたところなにかとご多用の週末お集まりいただきありがとうございます。今回の大地震におきまして同窓の先生方がお亡くなりになり、また大きな被害を受けられ痛ましい限りである。

同窓会としても県歯と協力して同窓の各位の再建に力を尽くしたいと考えている。

1月14日に天満の附属病院の地鎮祭、4月1日には楠葉の学舎の地鎮祭を行った。施工は天満は鹿島建設、楠葉は竹中工務店と熊谷組が分担しながら行う。

当初大地震により建築費の高騰を心配していたが、予算の範囲内で入札が済んだ。当初200億を予定していたが25億程低く落札出来た。

スケジュールは平成9年3月には両方とも完成する。平成9年の入学者からは楠葉の学舎で6年一貫制の教育を受けることになる。

4月1日からは学長は変わらないが、副学長は藤井教授と教養課程の倉橋教授、総務部長は外科の毛利教授、教学部長は口腔外科の白数教授、教務部長は補綴の川添教授、学生部長は理工の中村教授の人事の移動が行われ決定している。



挨拶する村井会長

大学の方から同窓会本部の副会長に出ているが今回は木下教授に出ていることになった。本年歯周病学の山岡教授と解剖学の太田教授の2名が定年退職された。後任は公募の後、選挙が行われるのでまだ決定していないが、法人の理事については退任されるのが決定しているので先般の臨時の理事会で選挙が行われ後任に倉橋教授と木下教授の2人に決定した。

2年後の病院、学舎の完成を楽しみにしている。2年後には創立85周年が行われると思う。

母校の発展にご協力いただきたい。

《学位受領者表彰》

本年度学位受領者 ○印 出席者

氏名	卒回	地区名	受領日
○深澤 英輔	大18	三木市	平成6年6月22日
高橋 仁志	大23	播磨	平成6年6月22日
○今上 康夫	大26	揖斐	平成6年6月22日
森本 哲司	大28	宝塚市	平成6年6月22日
板垣 惠輔	大30	宝塚市	平成6年9月28日
井口 利彦	大27	揖斐	平成6年12月27日
川人 照美	大30	宝塚市	平成6年12月27日



村井会長より表彰
を受ける学位受領者

○梅村 智 大29 東灘区 平成7年3月22日
 中村 重治 大25 西宮市 平成7年3月22日
 ○松崎 伸江 大39 灘 区 平成7年3月24日

出席の4名の受領者には村井会長より表彰状と記念品が贈呈され、深澤英輔先生より代表して謝辞があった。

《報告》

1) 会務報告 志築専務理事

(会員数) (平成7年2月28日現在)

分会名	支部名	会員数
神戸分会	東灘支部	72名
"	灘支部	54
"	中央支部	119
"	兵庫支部	59
"	長田支部	56
"	須磨支部	51
"	垂水支部	46
"	北支部	41
"	西支部	18
"	明石支部	71
"	三田支部	10
尼崎分会		175
西宮分会		151
摂津分会	伊丹支部	42
"	川西支部	27
"	宝塚支部	57
"	芦屋支部	39
播磨分会	三木美褒支部	14
"	小野加東支部	13

播磨分会	西脇多可支部	15
"	加西支部	11
"	播磨支部	65
"	姫路神崎支部	127
"	揖竜支部	15
"	穴粟支部	13
"	相生・赤穂・ 佐用支部	26
丹波分会	多紀支部	9
"	氷上支部	18
但馬分会	南但支部	12
"	北但支部	19
"	美方支部	1
淡路分会	洲本支部	15
"	津名支部	12
"	三原支部	12
	合計	1,485名

諸会議

役員会 平成6年4月16日(土) 午後3時30分
 総会 平成6年4月16日(土) 午後4時
 役員会・分会長・支部長・クラス幹事会
 平成6年8月19日(金) 午後7時

物故会員

地区	氏名	卒回	年齢	死亡年月日
兵庫区	古井博仁	専31	65歳	平成6年4月3日
尼崎市	西小森松生	専25	72歳	平成6年4月4日
西宮市	田中堅市	専30	66歳	平成6年4月14日
相生・赤穂市郡	井上文雄	専21	78歳	平成6年5月17日
兵庫区	永田三郎	専20	78歳	平成6年5月23日

西宮市	西岡 修也	大8	60歳	平成6年6月6日
三原郡	山田 一二	専12	86歳	平成6年6月15日
佐用郡	安東満寿穂	専6	91歳	平成6年7月8日
姫路市	北 英一	大9	57歳	平成6年8月1日
東灘区	藤田 恭吾	専32	64歳	平成6年8月26日
姫路市	山本 武夫	専17	81歳	平成6年9月10日
多紀郡	石田 一郎	専12	86歳	平成6年9月18日
北区	川口 茂	大13	56歳	平成6年10月19日
姫路市	光川 辰三	大3	64歳	平成6年11月20日
東灘区	麩谷 延夫	専30	69歳	平成6年11月25日
三木市	藤原 孝幸	大11	58歳	平成6年12月9日
尼崎市	大嶋 清	専19	78歳	平成6年12月15日
播磨	鎌田 三郎	大10	58歳	平成6年12月17日
西宮市	三浦 秀夫	大8	61歳	平成6年12月31日
尼崎市	中村 正勝	専29	67歳	平成7年1月17日
尼崎市	繁益 重善	専23	73歳	平成7年1月17日
姫路市	後藤 赫雄	専23	83歳	平成7年1月24日
灘区	末岡 彬	大9	59歳	平成7年2月4日
西宮市	高木 馴	専7	88歳	平成7年2月12日
姫路市	大塚 一郎	専21	75歳	平成7年2月24日
尼崎市	前田 喜一	専24	93歳	平成7年3月4日

以上26名の物故会員の霊に対し弔意黙祷を行った。

事業報告

◎第12回大阪歯科大学同窓会全国会員大会
(兵庫県当番)

平成6年10月1日(土)午後1時

新神戸オリエンタルホテル 申込者2,061名

2) 会計報告 三坂常任理事

3月末迄は決算が出ているので決算報告を行います。新年度になってからは4月7日に監査会があり3万円を支出している。

3) 本部報告 志築専務理事

平成6年度 通常総会

日時 平成7年3月4日(土)午後3時

場所 大阪歯科大学 5階 講義室

《議事》

第1号議案 平成5年度収支決算
(ポストグラデュエートコース決算を含む)

第2号議案 平成7年度事業計画

第3号議案 平成7年度事業計画

第4号議案 阪神大震災義援金募集の件

第5号議案 新キャンパス記念事業拠出金の件

学内報告

1. 人事

学校法人 大阪歯科大学法人役員

理事長 学長 佐川寛典(大4)

常務理事 管財 和田正治(専15)

同 総務 山岡昭(専28)

同 教学 太田義邦(専29)

同 人事 藤井辦次(大1)

理事 総務 奥野喜一(専22)

同 経理 村井俊郎(専25)

同 人事 新田孟(専30)

同 教学 玉置敏夫(大5)

監事 有山金吾(専28)

同 森宏(専22)

2. 平成6年度入学式

日時 平成6年4月8日(金)
午前10時

入学者 128名

大学院入学者 20名

《議事》

第1号議案 平成6年度 収入支出決算

平成6年度 大阪歯科大学兵庫県同窓会

収入支出決算書

三坂常任理事の説明の後、河合監事より4月7日監査の行った結果適正と認めるとの監査報告があり後可決決定した。

第2号議案 平成年度事業計画及び

平成7年度収入支出予算

平成7年度 事業計画

1. 会員の学術研修に関する事項
2. 会員の福祉共済に関する事項
3. 慶弔に関する事項
4. 会報の発行
5. 各歯科大学同窓会・校友会との親睦に関する事項
6. 渉外に関する事項
7. その他目的達成のために必要な事項
名簿の発行があるが震災により診療所、住

所の変更が激しいので延期するか、中止するか会長にご一任いただきたい。

第3号議案 会費の額及び徴収方法について
会費の額 年額12,000円(2回)
徴収方法 社保診療報酬から差し引く
阪神、淡路大震災に被災した会員の会費の猶予、減免については同窓会本部と同調して行いたいので会長に一任してほしい。

義援金の配分につきまして役員会でご了解いただいた様に全壊全焼10万円、半壊半焼5万円、円、一部損傷3万円で配分したいので会長に一任してほしいとの志築常任理事の説明があり一括上程の2号議案、3号議案はそれぞれ可決決定した。

第4号議案 会長の選出について
村井会長の留任という役員会の決定を満場一致で承諾し村井会長の留任が決定した。

第5号議案 監事の選出について
現監事2名の留任が決定した。

《協 議》

第39回会員大会について

8月19日 ポートピアホテルで開催予定で準備を進めていたが大地震の後であるので中止することに決定した、と志築専務理事の説明があり異議なく了解された。

以上で全日程終了し中塚副会長の辞で終了した。

平成7年度 第1回大阪歯科大学兵庫県同窓会役員会

役員会は定刻、志築専務理事の司会により、小田副会長が開会のことばを述べた後、議長に伊藤副会長を選出、議長より議事録署名人に岡田(尼崎)、増田(中央区)両氏を指名し、村井会長の挨拶にうつった。

《村井会長挨拶》

同窓会の役員会を開催しましたところ、震災後役員が顔を揃えたのははじめてであるが、今回の震災で多数の同窓の先生方が大変大きな被害を受けられまして本当に心からお見舞いを申し上げると共に、亡くなられた先生方にはご冥福をお祈りするものであります。

その後、県歯科医師会でも同窓会でも義援金の配分など現在も行っておりますが、なかなか被害の状態を完全に把握するのが難しくて葉書で回答いただいたのと郡市区会長から報告いただいたのと合わせて確定を急いでいるのが現状である。

後程、総会があるので現在の大学のキャンパス建設の問題、大学の人事の問題等について説

日時 平成7年4月15日
午後3時30分
場所 兵庫県歯科医師会館5階ホール



報告する志築専務理事

明を行いたい、予定通り1月14日に天満の地鎮祭を行い着々と進行中である。4月13日には楠葉の地鎮祭を行い6年一貫教育のキャンパス建設を開始している。

天満の病院、楠葉の学舎について入札を行ったところ震災後で建築費が高騰しているかと心配していたが、業者側も誠実に入札に応じてもらって予定していた200億余を30億下回る価格で決定した。

天満の病院は鹿島建設、楠葉の学舎は竹中工務店、熊谷組を中心にして建設が進んでいる。

本日は年度末の非常に重要な議案を上程しているので総会に付議する前にこの役員会で先生方のご審議をいただきたいのでよろしくお願いしたい。

《報告》

1) 会報報告 志築専務理事

会務報告書を配付しているのでご一読いただきたい。詳細な説明は総会で行います。

2) 会計報告 三坂常任理事

3月末迄は決算が出ているので決算報告で申し上げる。4月に入り監査会がありその費用3万円を支出している。

3) 本部報告 志築専務理事

資料として平成6年度通常総会の日程と学内報告を配付しているのでご一読いただきたい。総会で詳細に報告したい。

なお本部で全国の会員から集めました義援金につきまして5,000万円から6,000万円集まっているとのことである。兵庫県と大阪府に配分の問題もあるが、兵庫県に配分された分につきましては全壊全焼10万円、半壊半焼5万円、一部損傷については3万円の線にしたいと思っています。

る。会長にご一任いただきたい。

なお兵庫県から集めまして本部に送った分は308万円でございます。

《協議》

1) 総会開催について 志築専務理事

総会の日程を配付しているのでご一読いただきたい。任期満了になるので会長、監事の選出も提案しているのでよろしく願いたい。第39回会員大会については8月19日ポートピアホテルを予約して西宮が担当で用意を進めていたが、震災後であり中止したほうが、の意見が多数あったので中止とした。なお恒例の総会後の懇親会も会場としていた神仙閣が使えなくなっているので中止する。

なお会費の徴収について阪神・淡路大震災の被災会員につき本部で福祉部会を開き会費の猶予、減免を検討されているので、兵庫県でもその線に添って会費の猶予、減免を決定したいので会長に一任いただきたい。

嘉ノ海(姫路)氏より会長、監事の選出については震災後の時期であるのでご留任いただきたいとの発言があった。笠原(灘)氏より、会長の留任は異存がないか監事については総会で選出いただきたいとの発言があり、伊藤議長より会長の留任は役員会で了解いただいた、監事については総会で計るということでご了解いただきたいとの説明があった。

以上で日程を終わり中塚副会長の閉会のことで終了した。

お知らせ

第39回 大阪歯科大学兵庫県同窓会会員大会

日 時	平成8年8月24日(土)	午後2時
場 所	新神戸オリエンタルホテル	
当 番	西宮分会	

《議 事》

第1号議案 平成6年度 収支決算

平成6年度 大阪歯科大学兵庫県同窓会 収入支出決算書

(自平成6年4月1日
自平成7年3月31日)

	平成6年度 決算額	平成6年度 予算額	予算との差額	
			増	減
収入の部	23,147,847	22,361,000	786,847	
支出の部	14,872,333	22,361,000		7,488,667
次年度繰越収支差額	8,275,517	0		

収入の部

(単位:円)

科 目	平成6年度 決算額	平成6年度 予算額	比 較		執行率 (%)	摘 要
			増	減		
第一款 会 費	17,082,000	16,920,000	162,000		100.9	
第一項 会 費	17,082,000	16,920,000	162,000		100.9	
第二款 雑 収 入	2,094,389	1,541,000	553,389		135.9	
第一項 雑 入	559,389	30,000	529,389		1864.9	
第二項 寄 附 金	0	1,000		1,000	0	
第三項 本部手数料	1,535,000	1,510,000	25,000		101.6	
(A) 当期収入合計	19,176,389	18,461,000	715,389		103.8	
前期繰越収支差額	3,971,458	3,900,000	71,458		101.8	
(B) 収 支 合 計	23,147,847	22,361,000	786,847		103.5	

支出の部

科 目	平成6年度 決算額	平成6年度 予算額	比 較		執行率 (%)	摘 要
			増	減		
第一款 事 務 費	4,772,432	5,970,000		1,197,568	79.9	
第一項 事 務 費	1,580,000	1,660,000		80,000	95.1	
第二項 旅 費	642,620	1,200,000		557,380	53.5	
第三項 通信印刷費	794,810	1,100,000		305,190	72.2	
第四項 消耗品費	325,180	400,000			81.2	
第五項 事務委託費	1,410,000	1,410,000			100	
第六項 雑 費	19,822	200,000		180,178	9.9	
第二款 会 議 費	1,982,267	3,000,000		1,017,733	66.0	
第一項 会 議 費	1,982,267	3,000,000		1,017,733	66.0	
第三款 事 業 費	8,117,634	11,601,000		3,483,366	69.9	
第一項 学 術 費	16,995	500,000		483,005	3.3	
第二項 広報宣伝費	739,260	1,000,000		260,740	73.9	
第三項 福祉厚生費	0	1,000		1,000	0	
第四項 会務連絡費	793,260	1,500,000		706,740	52.8	
第五項 表彰慶弔費	1,593,712	1,200,000	393,712		132.8	
第六項 諸見舞金	1,420,000	1,400,000	20,000		101.4	
第七項 渉 外 費	1,054,407	3,500,000		2,445,593	30.1	
第八項 時局対策積立金	2,500,000	2,500,000			100	
第四款 予 備 費	0	1,790,000		1,790,000	0	
第一項 予 備 費		1,790,000		1,790,000	0	
(C) 当期支出合計	14,872,333	22,361,000	△7,488,667		66.5	
(D) 次期繰越収支差額	8,275,514	0	8,275,514			
支 出 合 計	23,147,847	22,361,000	786,847		103.5	
(当期収支差額)	(4,304,056)	(△3,900,000)	(8,204,056)			A - C
(次期繰越収支差額)	8,275,514	0	8,275,514			B - C
支 出 合 計	23,147,847	22,361,000	786,847		103.5	C + D

第2号議案 平成7年度 収入支出予算

平成7年度 大阪歯科大学兵庫県同窓会 収入支出予算書

(自平成7年4月1日)
(自平成8年3月31日)

収入額 26,461,000円
支出額 26,461,000円

収入の部 内 訳 (単位:円)

科 目	平成7年度 予算額	平成6年度 予算額	比 較		
			増	減	
第一款 会 費	16,920,000	16,920,000			月1,000円×12ヵ月×1,410名
第一項 会 費	16,920,000	16,920,000			
第二款 雑 収 入	1,541,000	1,541,000			
第一項 雑 入	30,000	30,000			預金利子
第二項 寄 附 金	1,000	1,000			10,000円×1,410名×10%
第三項 本部手数料	1,510,000	1,510,000			本部より過年度分100名含む
(A)当期収入合計	18,461,000	18,461,000	0		
前期繰越収支差額	8,000,000	3,900,000	4,100,000		
(B)収 支 合 計	26,461,000	22,361,000	4,100,000		

支 出 の 部

科 目	平成7年度 予算額	平成6年度 予算額	比 較		摘 要
			増	減	
第一款 事 務 費	7,470,000	5,970,000	1,500,000		
第一項 事 務 費	1,660,000	1,660,000			
第二項 旅 費	1,200,000	1,200,000			
第三項 通信印刷費	1,100,000	1,100,000	1,500,000		名簿印刷
第四項 消耗品費	400,000	400,000			事務用品
第五項 事務委託費	1,410,000	1,410,000			
第六項 雑 費	200,000	200,000			
第二款 会 議 費	3,000,000	3,000,000			
第一項 会 議 費	3,000,000	3,000,000			役員会・常任理事会
第三款 事 業 費	11,601,000	11,601,000			
第一項 学 術 費	500,000	500,000			
第二項 広報宣伝費	1,000,000	1,000,000			会報発行
第三項 福祉厚生費	1,000	1,000			
第四項 会務連絡費	1,500,000	1,500,000			幹事会
第五項 表彰慶弔費	1,200,000	1,200,000			
第六項 諸見舞金	1,400,000	1,400,000			@20,000×70名
第七項 渉 外 費	3,500,000	3,500,000			
第八項 時局対策積立金	2,500,000	2,500,000			時局対策積立金会計へ支出
第四款 予 備 費	2,890,000	1,790,000	1,100,000		
第一項 予 備 費	2,890,000	1,790,000	1,100,000		
(C)当期支出合計	24,961,000	22,361,000	2,600,000		
(当期収支差額)	(△6,500,000)	(△3,900,000)	(△2,600,000)		A - C
(D)次期繰越収支差額	0	0	1,500,000		B - C
支 出 合 計	26,461,000	22,361,000	4,100,000		C + D

平成7・8年度 役員名簿

大阪歯科大学兵庫県同窓会役員

会 長	村井 俊郎	
副 会 長	伊藤 彰彦	小田 一尚
	中塚 裕	渡部 潔
	長浜 禎昭	
専務理事	志築 照和	
常任理事	志水 和夫	美田 良治
庶 務	嘉ノ海昭吾	岡田 利雄
	前田 孝俊	一瀬 健二
	井上 正俊	石田稜威夫
	本庄 紘	矢富 義昭
会 計	三坂 明美	池田 英綱
学 術	西田 真和	増田 勝美
	山脇 潤三	久保 龍三
	藍 亮一郎	大矢 信夫
	佐藤 莞爾	高木 馴次
	大野 正迪	橋本 猛伸
	大頭 孝三	住谷 道夫
	沢田 隆	神田 孝平
広 報	中森 康二	川村 幸雄
	永井 愛正	木許 隆道
	橋本 卓次	水田 吉彦
	中野 浚次	豊川 輝久
福 祉	赤井 崇郎	四柳 嘉清
	次橋 作蔵	飯田 浩司
	河村 宏	清水 強
	明石 貴雄	奥田 健
	幸田 洋一	庄司 武
	山田 隆造	小島 良明
組 織	田村 正	瀧野 俊一
	森鼻 正之	小野 勉
	今井 章	山岡 昭二
	保井 諧至	南木 秀夫
	藤井 昭	正井 洋児
	鯉田 英昭	英保 英一
	森岡 慧	田村 宏
	河南 博仁	安留 力
	西條 晃	村瀬 進
	野口 勝弘	田村 晃
	永井 清方	川口 豊
	井堂 孝純	

渉 外	笠原 義人	橋川 司
	善本 秀和	小川 靖彦
	関川 健	小坂 修
	蓮池 俊明	小野 晃
	宇賀 文夫	前野 康彦
	清水 保則	清水 栄一
	天方 孝彦	坂口喜史夫
	長谷川秀明	記村 恭造
	西海 啓之	和田 透
	飯島 恵一	中川 真
	水野 康朗	入江 恒夫
	正井 正	佐本 高明
理 事	中村 要	足立 維
	高津 全雄	龍田 早苗
	宮坂与四郎	塚本 昇平
	木村 新秀	守内 道信
	下井田久仁夫	嘉ノ海寿八郎
	香山 守	上田 晴敏
	豊後 護	安保 博之
	金月 清	宮本 弘義
	糸田 英俊	清原 光次
	馬場 弘	岩田 益司
	檜垣 鋭治	西村 奎介
	加宮 義郎	原 平和
	和久 勝彦	吉田 圭輔
	伊藤 覚三	片山 文秀
	中塚 史朗	黒田 延彦
	高田 邦彦	福島 重紀
	淀 泰尚	吉本 一馬
	守光 昌弘	滝本 亜樹
	関本 恵一	浜田 邦夫
	志賀 泰之	青木 和明
	深澤 英輔	和手 甚京
	村上 英夫	浜田 幸人
	糸永 茂雄	吉江 重夫
	西山 彰	東 文宣
	志築 秀和	永谷 敏
	赤井 高之	渡部 豊
監 事	内海 利正	河合 範夫
諮問委員	井上貴之介	大浦 波夫
	竹谷 三省	溝井三代次
	湊 信一	永津 良三
	磯島吉之祐	津島 大麓
	岡田 一三	稲垣 真也

和田 茂之 松本 清
塩見 洋三

大阪歯科大学兵庫県同窓会分会役員

神戸分会分会長	中央	飯田 浩司
支 部 長	東灘	下井田久仁夫
"	灘	滝本 讓
"	中央	阪本 義之
"	兵庫	津村 明史
"	長田	清原 光次
"	須磨	内海 健雄
"	垂水	藤井 昭
"	明石	正井 正
"	三田	豊後 護
"	北	太田 晃
"	西	宮本 弘義
尼崎分会分会長	尼崎	志築 照和
西宮分会分会長	西宮	安留 力
摂津分会分会長	川西	今井 章
支 部 長	伊丹	南川 嘉昌
"	川西	木南 卓也
"	宝塚	加宮 義郎
"	芦屋	池沢 親彦
播磨分会分会長	播磨	山脇 潤三
支 部 長	三木	深澤 英輔
"	美囊	
"	小野	原 要次
"	加東	
"	西脇	廣田 昌逸
"	多可	
"	加西	村上 寛人
"	播磨	守光 昌弘
"	姫路	吉本 一馬
"	神崎	
"	揖竈	福本 利郎
"	宍粟	大橋 隆元
"	相生	
"	赤穂	小川 靖彦
"	佐用	
丹波分会分会長	氷上	足立 維
支 部 長	多紀	田中 英男
"	氷上	足立 維
但馬分会分会長	南但	瀧野 俊一
支 部 長	南但	芹沢 修

" 北但 荒垣 淳一
" 美方 松岡 弥栄
淡路分会分会長 津名 竹谷 三省
支 部 長 洲本 吉田 圭輔
" 津名 国本 竝功
" 三原 糸田 英俊

大阪歯科大学兵庫県同窓会クラス幹事

専 4	橋本 六也	専 11	一瀬 耕介
専 12	清水 省吾	専 13	高木 定夫
専 15	井上貴之介	専 16	若林 益夫
専 17	林 清徳	専 18	湊 信一
専 19	谷上 利夫	専 20	石上 隆章
専 21	小寺 長蔵	専 22	佐久間垣男
専 23	八竹 良清	専 24	遠藤 哲雄
専 25	寺西 敏一	専 26	田村 正
専 27	高端 友之	専 28	瀧井 源也
専 29	田中 義孝	専 30	関川 健
専 31	宮坂与四郎	専 32	藤本 和夫
医定	石崎 彦介	京城	吉本 二郎
大 1	山田 旺	大 2	佐々木重夫
大 3	中村 博司	大 4	田村 宏
大 5	坂口喜史夫	大 6	西條 晃
大 7	下井田久仁夫	大 8	河村 昌行
大 9	一ツ町泰久	大 10	水田 吉彦
大 11	大野 正迪	大 12	黒田 延彦
大 13	井堂 孝純	大 14	本庄 紘
大 15	入江 恒夫	大 16	関本 恵一
大 17	青木 和明	大 18	和手 甚京
大 19	藤田 義人	大 20	親里 嘉之
大 21	入船 忠史	大 22	依藤 正
大 23	糸永 茂雄	大 24	吉江 重夫
大 25	西山 彰	大 26	志築 秀和
大 27	井口 利彦	大 28	永谷 敏
大 29	赤井 高之	大 30	渡部 豊
大 31	楠瀬 昌宏	大 32	俣木 康彰
大 33	中原 範人	大 34	岩城 正之
大 35	佐竹 茂樹	大 36	前田 孝哉
大 37	田村 功	大 38	橋谷 義尚
大 39	崎山 清直	大 40	藤原 到
大 41	中野 敬輔	大 42	釜田 隆
大 43	磯島 吉博		



特集 阪神・淡路大震災から

各分会・クラス会からのレポート

「神戸に千年地震なし」と信じて疑わなかったわれわれにとって、阪神・淡路大震災（兵庫県南部地震）は、晴天の霹靂であった。

平成7年1月17日早暁、一瞬のうちに5,500余の生命を奪い、16万を超える家屋を倒し、避



中原日歯会長に説明する村井会長

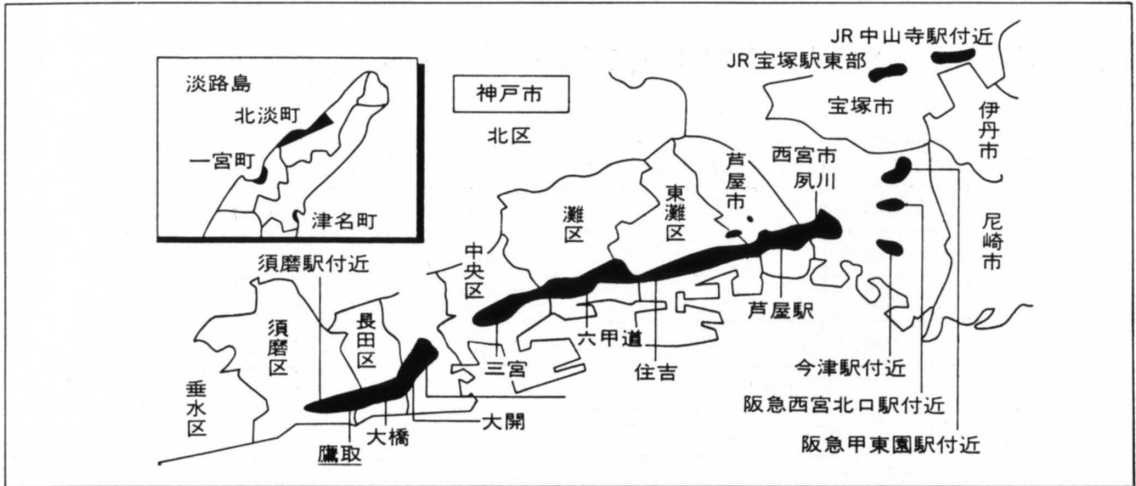
難者は30万にも達した。しかも、ガス・水道・電気などのライフラインはずたずたとになり、近代都市の象徴だった新幹線や高速道路も、もろくも崩れ落ちて交通網の殆んどが寸断された。

「我が愛する神戸のまちが、潰滅に瀕するのを、私は不幸にして三たび、この目で見た。水害、戦災、そしてこのたびの地震である。大地が揺らぐという、激しい地震が、三つの災厄のなかで最も衝撃的であった。……」と、神戸新聞の1月25日朝刊に作家陳舜臣さんが一文を寄せていた。

水害は、昭和13年7月5日に60年ぶりに阪神地方を襲った大豪雨で、六甲山系から流れでている各河川が決潰して、土石流による未曾有の大被害があったときのことである。

このときの模様は、谷崎潤一郎の「細雪」のなかで克明に描写されている。

戦災は、敗戦の年昭和20年3月17日と6月5日の神戸大空襲である。3月の空襲では2,598人、6月の空襲でも3,454人の犠牲者がでて、合わせて40数万人もの多くの人びとが罹災し、



兵庫県南部地震、震度7の分布

街一面が焼土と化した。

そして、50年後にこんどは誰もが思いもしなかった大災害が、突如として地底から襲ってきたのである。

震災直後の数日間は、同窓の安否を気遣うにも電話も通じず、唯一の情報源はラジオとテレビしかなく、切歯扼腕の日々が続いた。

ようやく電話も通じ、被災地との連絡もとれるようになって、お二人の同窓の方が亡くなられたことに驚き、また、激震地(図参照)では殆んどの同窓の方が避難生活を余儀なくされていたにもかかわらず、被災住民に対する初期医療活動に携わっておられることも知った。

被害地は神戸分会各支部、摂津分会各支部、西宮分会、淡路分会各支部、尼崎分会に及び、9月21日現在(表参照)の調べでも、被災地全壊が180名、半壊が185名、一部損壊が492名、計857名にも達し、いかに歯科界としても未曾有の大災害であったことがわかる。

この震災では、多くの教訓を学んだ。とくに忘れ勝ちだった人と人との絆を呼びもどしてくれたことと、大切にしていた物が壊れて物へのこだわりの空しさを知ったことであろう。また、心配された激震地の同窓の方々に、暗い陰もなくなり、それぞれご自身のおかれた環境にもめげずに、再建への道を歩んでおられる姿がみられるようになった。

震災から早や一年。激震地で開業されている同窓の方に犠牲者のなかったことは不幸中の幸いである。本号は震災特集号として災害地の各分会・支部とクラス会からドキュメント震災の記事をお願いした。震災時の状況やその後のことなど、思いのこめられた内容をとくとお読みいただきたい。



母校大阪歯科大学の救助活動

平成7年9月21日

阪神淡路大震災郡市区別義援金支払状況

大歯大兵庫県同窓会

被災度	義援金	支払人数	義援金支払金額
全壊	200,000	180名	36,000,000
半壊	50,000	185名	9,250,000
一部損	30,000	492名	14,760,000
合 計		857名	60,010,000

郡市区	被災度			支払人数	義援金支払額
	全壊	半壊	一部損		
東灘区	23	21	28	72名	6,490,000
灘区	18	11	21	50名	4,780,000
中央区	33	26	43	102名	9,190,000
兵庫区	12	13	19	44名	3,620,000
長田区	22	11	14	47名	5,370,000
須磨区	8	10	18	36名	2,640,000
垂水区	2	5	30	37名	1,550,000
北区	2	2	21	25名	1,130,000
西区	1	1	11	13名	580,000
尼崎市	9	25	79	113名	5,420,000
西宮市	29	26	69	124名	9,170,000
伊丹市	2	7	21	30名	1,380,000
三田市	0	0	2	2名	60,000
川西市	0	3	9	12名	420,000
宝塚市	6	6	30	42名	2,400,000
芦屋市	7	9	14	30名	2,270,000
明石市	5	7	41	53名	2,580,000
三木美濃	0	0	5	5名	150,000
播磨	0	0	1	1名	30,000
姫路市	0	0	0	0名	0
洲本市	0	0	6	6名	180,000
津名郡	1	2	8	11名	540,000
三原郡	0	0	2	2名	60,000
合 計	180	185	492	857名	60,010,000



分会支部 だより

神戸分会

神戸分会では去年末に支部長会を開催し分会総会を本年初頭に予定しておりましたが今回の阪神・淡路大震災のため神戸分会全域が大打撃を被りました。幸いこの10ヵ月、復興の兆しが見えたような気もしますが諸兄ご存知の如く現在もなお診療所の再開不能の先生もおられ、その気持ちに配慮し総会の開催が遅れて申し訳なく思っております。本年度内に開催した大阪歯科大学兵庫県同窓会総会の分会当番の件も含めいろいろご相談申し上げますのでご協力の程よろしくお願い申し上げます。（飯田浩司）

東灘支部

東灘支部では、毎年、会員家族大会が全国同窓会の前に、総会を開催しているが、今年は、震災の影響で延期になっていたが、12月16日（土）神戸ベイシェラトンホテルにて開催の予定である。今年は東灘歯科医師会でも事業縮小から忘年会は開催されないため、その代わりの意味も込めて、他校の先生にも広く出席を呼びかけ、忘年会も兼ねて開催する予定である。

最後に、この大震災において甚大な被害を受けられました会員の先生方に心よりお見舞いを申しあげると共に、一日も早い復興を祈念申し上げます。（神田：記）

西支部

今回の阪神・淡路大震災で、被害に遭われた皆様に心よりお見舞い申し上げます。

1月17日午前5時46分、突然の地響きに続く、まるでロデオロボットの背に乗せられたような凄じい揺れで私は神戸市東灘区の自宅で

目を覚ましました。幸い私の住んでいる自宅マンション及び、周辺の家、他のマンション群は倒壊を免れる事が出来たのですが、ご多分に漏れず部屋の中は悲惨な状態となっております。

私の診療所は神戸市西区にあります。2日後の19日に長年ほったらかしにしていた50ccバイクを整備し、ようやく行くことができましたが、近隣に住んでいるスタッフ達が私よりも早く駆け付けてくれ、みんなで協力し、諸事に対処してくれていましたので、ほとんど私は何もしなくてもいい状態となっております。震災の大変な時でしたが、すばらしい人材に恵まれた事に感謝する事ができました。また、日本歯科医師会、兵庫県歯科医師会、神戸市歯科医師会、神戸市西区歯科医師会諸先生方、その他、診療所再開に尽力して下さったみなさまに感謝いたします。

感謝という言葉を改めて考えさせられた震災体験でありました。

（西区 薩摩佳秀）

西宮分会

あの悪夢の大震災から早や9ヵ月が過ぎようとしておりますが、激震の瞬間はまるでビデオの再生のように鮮明に脳裏に焼き付いて思い出すことができるのは皆さん同様だと思います。

何と言っても会員、家族の皆さん殆んどの方々が無事だったのは、まず何事にもかえ難いことと思っております。しかし、診療所、自宅の被害は西宮においても大きく、殆んどの会員に及んでおります。そこで西宮分会としては早速常任理事会で協議をし、別途会計の中から僅かながら一律に見舞金を贈りました。本年もあと2ヵ月半になりましたが、気を取り直して頑張りましょう。ところで今度の震災の結果、ストップしたライフラインのうち、電気の復旧は割合早かったものの、特に断水には皆ほとんど困り果てました。しかし、わが家には飲料水にはなりません、打ち抜き井戸があったので洗濯、掃除、トイレに大変役立ち、隣近所にも使って貰って大変感謝されました。宅地造成地で徐々に住宅地となった地域で、人との交流があまりありませんでしたが、これが契機となり

漸くお近づきになれたことはよかったと思っています。

大歯兵庫県同窓会の会員大会は本年は中止となりましたが、来年は開催されると思います。

西宮が当番分会として変更がありませんので、その節はご協力の程、何卒よろしく願いいたします。(会長 安留 力)

摂津分会

めっきり秋らしく朝晩は少し寒い感があります。大歯同窓会の諸兄震災後如何お過ごしでしょうか。大変だったことお察しお見舞い申し上げます。余震がある度毎あの恐怖が呼び起こされます。やっと診療を再開しても、お互いこわい思いの話で診療もすすみません。通る車の音が地鳴りに聞え一瞬また来たかと思ったり、当分地震過敏症が続きました。落ちつかないまま早や今年もあますところ、3月、今年はいやなことばかりが起きます。さて5月に入り摂津分会を24日に開き、今年の会費は免除することをとりあえず決め、そして摂津分会の総会及び懇親会を7月16日宝塚の宝仙花で会費を集めることなく余剰金でまかないました。震災後にもかかわらず約40人の方々のご参加をいただき、お互いの労をねぎらい合うことが出来ました。また今年はしばらく途絶えておりましたゴルフコンペを来る10月26日大宝塚ゴルフクラブで20名参加で行う予定にしております。例年にもまして今年も大変な年ではありますが、しかし諸兄の皆様くじけず頑張っておられる由、どうかお身体だけは大切に下さいますようお願い申し上げます。(摂津分会長 加宮義郎)

摂津分会 芦屋支部

芦屋支部の会員や1月の大地震で診療所自宅が被災し全壊半壊一部損壊と大きな被害を蒙りました。幸い地震での負傷はなく胸をなでおろしておりますが、仮設での診療や生活そして復旧に日夜苦労している昨今です。

4月に支部役員が集まり善後策を協議した結果今年の年会費は免除し、今秋に懇親会を行うことに決まりました。支部会員数は大38回生の杉井先生を迎え39名となりました。

(池沢：記)

震災その後

震災から9ヵ月お陰さまで元の診療所が完成し復旧できたことを心から感謝しております。

思いかえせば、開院後3年3ヵ月で被災し診療所を失った時点で、失業者となってしまったのですが、同窓会の先生方を通じて心暖まる励ましのお言葉や過分なる義援金を頂いたりまた復旧までの間の就職斡旋や近隣での仮設診療所の選定にご尽力を頂き深謝しております。幸いにも私は、芦屋市歯科医師会の先生方のお陰で同会館を仮診療所とさせて頂き3月より診療を再開しましたが、その後もいろいろな面でご支援を頂き同窓会の会員として存在感を強く感じました。

各地で起こる災害を傍観者として眺めてきた私にとって、人生感が変わるような経験をしましたが、同窓会の諸先生方のお陰でここまでやってこられたことを感謝するとともにさらに復興に向けて、自分自身の危機管理の強化に努めていきたいと思えます。

(芦屋支部 吉川広志)

播磨分会 三木支部

警察歯科医会活動に参加

1月17日(火)午前5時46分に発生した阪神・淡路大震災は死者6,000人を越す、未曾有の大被害をもたらした。震災後の余震が頻発するなか三木市・美婁郡歯科医師会に兵庫県警察歯科医会から身元不名者の個体識別検案の出動要請があったのは、3日後の20日(金)であった。佐本会長以下6人が出務し、そのうち同窓会は佐本高明、高岡雅雄、原公章、東文宣の4人であった。

22日(日)正午から2泊3日の出務要請に対して本会では2班に分け、1泊2日の3人ずつ出務する態勢を整え、まず、われわれ同窓チームが出動した。三木警察署に防寒具、寝袋や毛布などの寝具、飲料水、非常食また個体検案に必要なゴム手袋、白衣、マスク、懐中電燈などを持って集まり、パトカーに同乗して兵歯会館まで緊急走行で送ってもらった。

23日(月)午後2時頃、県警本部捜査第一課から要請があり、須磨寺(須磨区)へ4人が出動した。道すがら目に入ってくる光景は想像を

絶するものがあり、この大地震のエネルギーのすさまじさに身の危険を感じ、足がすくみ、見振るいする思いであった。

須磨寺では本堂が安置所になっていて、ドライアイスでカチカチに凍結された遺体の検案は困難をきわめたが、3位1体で協力しあい、無事終了することができた。

大変貴重な経験を胸に、われわれ先発組は同日午後8時頃、第2班と入れ替わりにパトカーに同乗して帰路についた。(深沢英輔)

但馬分会

『大阪歯科大学兵庫県同窓会但馬分会親睦旅行』

兵庫県同窓会但馬分会の親睦旅行は、10月28日(土)～29日(日)、1泊2日で東郷温泉へ行って来ました。出席者は、瀧野分会長をはじめ、安福、井上、荒垣、岡、小林、淀(南但)澤田、蔵野、武田、山科(北但)、松岡((美方)の各先生とオンマ社長の13名でした。

28日は、東郷湖畔中国大庭園、燕趙園を見学のと後旅館「谷水」に到着。ゆっくりと温泉につきり、日頃の疲れをいやしました。その後、宴会場にて、瀧野分会長のごあいさつの後、荒垣副会長の乾杯につづき、楽しい宴会が行われ、その勢いで二次会へとくり出し、夜遅くまで盛り上がりました。翌29日は、ゴルフ組と観光組とに分かれ、ゴルフ組は、倉吉インターヒルズG.Cにてコンペが開催されました。とても戦略性に富んだコースで、OBを連発しながらも、和気あいあいと楽しいゴルフでした。その後、観光組と合流し昼食をとった後、帰路につきました。少しはしゃぎすぎたかえって疲れてしまいました。最後になりましたが、今回の旅行並びにゴルフコンペのお世話をいただきました淀先生には、心より感謝いたします。また、このような親睦旅行が行われる日を楽しみにしております。

(山科：記)

淡路分会

阪神・淡路震災に被災して



わずか数十秒間の間で尊い命や長年築き上げた物すべてを奪ってしまった震災、自然の脅威を思い知らされると同時に高度技術社会がこれほどにも簡単に崩れてしまうものかと目を疑わずにはいられません。淡路は震源地でありながら我等同志一同は半壊、一部損壊の軽い被害に終わったことは不幸中の幸いという外がない。

見なれた神戸の街並みが瓦礫と化し、火の海になるのをテレビで見ながら神戸の先生方がさぞ大変だと涙が止まらなかったことをその当時を思い出します。震災から一週間目、上神した。神戸駅は大きなリュックや手荷物を両手にかかえた人が混雑していた人波に押されながら歩いて行く道路は至る所で寸断され、ビルの壁やガラスが飛び散り極めて危い。通る人びとは皆黙々と歩みを進めるだけ。崩壊したビルの谷間をけたたましく、サイレンを鳴らして走り行く救急車、歩き行く先で壊れた建物、ゆがんだ道路、数日前に見た神戸の街とは思えない瓦礫の街に涙が流れてくる。これでは復興に5年や6年でも難しいと思えた。

ふと大空襲の時に東京も大阪も名古屋も等々多かったがそれを思うと今度は神戸市及びその周辺なので案外早いのではないかと、いやそうありたいと思う。最後に日本歯科医師会、兵庫県歯科医師会、大歯同窓会の皆さんからの、義援金が贈られ大いに助かったことを厚く感謝申し上げます。(淡路分会長 竹谷三省)

淡路分会 津名支部



この度の阪神・淡路大震災に際しましては、義援金など救援を戴き心から感謝申し上げます。

悪夢としかいえないあの惨事、今まで経験した事のない様でした。地鳴りがしすぐグラグラM7.2の縦ゆれ横ゆれ、停電、断水、物が倒れガラスや食器などの壊れる凄じい音、壁、タイルが割れ落ち飾っている物はすべて落ちてまるで解体中の家の様でした。診療室を見に行くと改築して間がないので無害に一安心。気が動転してただ回りを片付けていた。2時間後ぐらいに電気が通じテレビから状況を得る事ができた。長田の火事、三宮のビル、高速道路の崩壊、灘周辺のひどさにおののいてしまった。落ち着いてくると普段の生活より何かと不便を感じライフラインの有り難さが身にしみた。幸いにもガスはプロパンだし井戸も使えた。何よりも自宅で自分の寝具で眠れるのが有難いと思えた。東浦町は2891軒中1094軒を解体した。9月にはその作業も終わり、閑散とした空気が広がっていたが、ほんの少しずつ家を建てる快音、薄暗くすすけた町に秋空が美しく映える様になってきた。元通りになるのはまだまだだが希望をもって頑張っていきたいと思います。

大切な方を亡くされ大事な物を失い今だ先行きのめどもつかない方々に心よりお悔み、お見舞い申し上げます。

未筆になりましたが、同窓生の皆様にご心配暖かいご支援を戴き誠に有り難うございました。

厚くお礼申し上げます。

(津名郡 国本並功)

淡路分会 三原支部

阪神・淡路大震災からはや9ヶ月が過ぎました。被災されました同窓の皆様には心からお見舞い申し上げます。私の所属三原支部も阪神間の会員の方々や津名支部の会員の皆様ほどの被害はなかったようですが多少の被害を受けました。

特に西淡町は沢山の家屋が全壊半壊の被害をうけました。私の旧診療所や家屋も半壊の憂目にあいました。

しかし三原支部会員一同無事に毎日を過ごしております。被災後しばらくは一般の人びとの精神的なストレスや家屋の損失等による後始末で患者さんの来院も激減したようですが、現在は落ちつきがみられるようになりほぼ震災前にもどりつつあります。終わりにりましたが被災されました会員の皆様にはどうか元気を出されまして復興に診療に頑張ってください。

(三原支部長 糸田英俊)





グラス幹事 だより

専11回

阪神・淡路大震災に際しましては、皆様方からお見舞いただき厚く御礼申し上げます。釜田、原口、一瀬の三人が大歯11回生で、兵庫県では少なくない存在です。釜田彰介君はこの度の激震により自宅が危険状態になり、約20年住み馴れた上甲東園も去り、長田区の診療所も崩壊したので新住所神戸市灘区長峰台2丁目6-4に転居され復興に善処されています。次に一瀬はこの度の地震は淡路の北淡町が震源地で洲本市は淡路の西の方でしたから診療所の壁が割れたり塗料がはげ落ちた程度です。診療所の建築されている箇所は洲本市の曲田山に近く地盤も堅く建物もセメント張りでしたから、建築されて70年も経過しておりますが被害も殆ど無かったのです。私も昭和6年3月卒業し当所で開業し63年間たちました。昨年6月神戸市で開業していました長男が帰洲し交替し歯科医業を受けつないでいます。平成6年9月14日、日本歯科医師会長より歯科医師有功章をいただく名誉に浴しました。原口正一君は南淡の三原町神代国衛に住まれ十数年前白内障で視力を失われ休業されました。一瀬は満86歳で、その間人間にとって一番大切なのは健康であることが身にしみてわかりました。皆様、頑張って長命を保つようにしましょう。

(専11回・一瀬耕介)



専18回

傷痕に屈せず逞しい前進を！

去る1月17日未明け、淡路島北部を震源地とする未曾有の大地震が、突如、兵庫県南部を襲い淡路、神戸、阪神間が潰滅したかとさえ思わせた。木造平屋建て歯科診療所兼用の自宅の八畳の間で、一人で寝ていた私は、烈しい不気味な鳴動に驚き、直ぐ枕下の懐中電灯と木刀を手にしたが、迎も激しい揺れて屋根瓦は忽ち崩れ落ち、柱傾き、天井、壁が裂け、本棚は倒れガラス破片の散乱で、起き上がるにも身動きすら出来ない。隣室に寝ていた家内と小学1年生の孫の悲鳴、離れ家の娘が烈しく裏戸を叩き、「開けて！早く早く」と喚く。何とか助け合って塵埃漂う薄明の裏庭へ急ぎ出たものの、足の踏み場もない瓦礫の山だ。生命線の柱と頼むガス、電気、水道、電話交通網等が瞬時にして悉く断たれ孤立状態で、不安と恐怖のどん底に陥った日から丁度9ヵ月が経った。生まれ育った子午線の街、愛する明石の表徴として車窓から旅行く人びとの目を楽しませ、心を和ませていた天文科学館の大時計も、5時46分の悪夢を指した俛1ヵ月余も止まっていた。私達は地震という大自然の猛威に跪き、今更乍ら己の無力さを知らされた。この激震で失ったものは実に計り知れず、想像を絶する悲惨極まる者であったが、しかし、得たものも決して少なくはなかった。豊かさの陰で隠れていた人の心の優しさ、労り合い、助け合って共に生きる事が何故に大切かを改めて痛感させられた。災害時に最も重要なのは被害者を孤立させない事だ。この辛い経験で学んだ貴重な教訓を、未来永劫に忘れず生かし続けねばならない。今回の震災に際し母校同窓会、聚蜂会僚友始め多くの方々から、いち早く心込められたお見舞いや、激励電話、手紙、救援物資を届けて頂き、幾度も感涙に咽んだ。

県下同期生で特に被害が大きかったのは、大浦波夫君、溝井三代次君と湊であったが、皆、家族に怪我人もなく、正に奇跡と云うべきだ。心や街の傷痕がどんなに深刻で絶え難いものであっても、吾々は希望を失わず、人生の一大試練を受け止め復興に向けて相携え、勇気を持って前進する決意を新たにしている。ご鞭撻誠に有難う。

最後になりましたが亡くなられた方々に対し、謹んで哀悼の誠を捧げます。

〔訃報〕

長期療養生活で病気回復を期待されていた学友、脇屋直行氏は、平成7年4月31日、逝去されました。在りし日を偲び、心からお悔やみ申し上げ、はるかにご冥福を祈ります。

(湊 信一)



専20回

あの悪夢のような日から早や9ヵ月が経ちました。あの時、磯島君の診療所はむしやき状態となり、岡田君の診療所の入っているビルは全壊しました。西宮の須沢君とは長らく連絡がとれず、リュックサックに弁当と水筒を入れ、歩いて西宮の彼の自宅を見に行きました。心配していた通り誰もおらず隣の家で聞きますと園田の方へ避難しているらしいとのことでした。診療所の方を見に行きましたがやはり被災していました。現在、磯島君は診療所を作りかえ機械を入れかえて診療を再開し、須沢君は以前の診療所跡に新しい診療所を建て診療を再開している。私、石上の診療所は長田の菅原地区にあるが悪運強く焼野原の中に焼け残ったが地震による破壊で鉄骨露出、排水管破損等の他の影響を受けた。

さて、私達同級生は急にさみしくなった。乾一郎、松崎豊、原肇が先年亡くなったが昨年は私が一緒によくハイキングを行った永田三郎君が亡くなり今年になって中野憲一君が6月2日に亡くなった。一時期私は彼と土曜日ごとに会い新しい技工について話しあったものだった。地震後電話が回復してからお互いの安全を確認しあい暖かくなったら一度会おうと話したのに遂に果たせなかった。合掌 (石上隆章)

お知らせ

平成7年度に博士号を取得された方は3月末日までにご一報下さい。
大歯大兵庫県同窓会 (熊谷)

専21回

大歯21回兵庫県天作会は今年になって、3人の方が亡くなりました。いずれも病気療養中で、経過は良好でしたのに、あの大地震の被害と、ショックで病状が悪化し、不幸な結果を早めたのではないかと思います。

岡田輝雄君は、手術後退院して、自宅療養していましたが、診療所全壊、自宅半壊の被害を受け、横浜のお嬢さんの家に避難していましたが、4月30日に亡くなりました。磯野耕司君は、自宅が全焼して、長男の家に避難していましたが、9月11日に亡くなりました。大塚一郎君は、病気療養のため閉院していましたが、2月24日病院で手術後に亡くなりました。ここに謹んでご3方のご冥福をお祈り申し上げます。

大震災後の兵庫県天作会の皆様様の消息を簡単に報告致します。小笠原君は被災後徳島県の病院に5月末迄入院し、奥様も骨の病気で同時入院していましたが現在は神戸に戻っています。武田繁雄君は、被災後6ヵ月間長崎の親せきの家に避難、稲垣君は、昨年12月15日診療所新築したので、幸い家屋だけは倒壊を免れました由、黒坂君は現在の所、特にどうと云う事はありませんが、土地不安から山口県と同窓会に頑張ってお席するそうです。堀家君は医院の方は3年半前に新築したので被害は少なかったが、自宅は30数ヵ所に被害を受けた由。大塚賢司君は時々囲碁の大会に出席するが後は野良仕事に励んでいる由。林君は2月に入院し病名不詳のまま3月4月と過ぎ、結局パーキンソンだそうです。越村君、野草君は震災の被害の方はわかりませんが元気に過ごしているようです。野草君は山口県の会合にも出席するとの事です。西田くんはこの頃は割に調子が良いので各日に診療を続けているそうです。私小寺は、東灘区で被災し家屋は一部損壊で助かりましたが、尼崎の診療所に6月迄避難していましたが現在は復帰しています。神戸地区では未だに余震が続きます。どうぞ万全の対策を忘れないようお願い致します。

(専21回兵庫県クラス代表 小寺：記)



専23回

クラス総会に 故繁益重善君を悼む

本年度、専23回生クラス会総会は9月28日徳島グランドホテル偕楽園に於いて地元阿南市開業の吉田敏夫君の準備・余興から翌日の観光に至るまで万般行き届いたお世話を頂き盛会。

この1月、阪神大震災の痛ましい犠牲者としての故繁益重善君の不慮の死を悼み、謹んで一同黙祷を捧げ、偲ぶ生前の思いでや愉快的な彼の数々の逸話に追悼のひとつとき。

無事生き残り診療可能とは言え、全・半壊の再建・補修にいまも不屈、復興に頑張る兵庫県の級友に寄せられる温かいお見舞いの言葉は宜しく本欄で伝言 報告させて頂く。

兵庫県より出席、伊藤俊造・八竹良清

[八竹：記]

専24回

私達県内在住の同級生は現在13名、他に内科を開業中の者1名、県外で療養中の者1名があります。なお前田君は本年3月5日亡くなりました。

卒業と同時に戦場に駆り出されましたが、戦後50年、それぞれ神戸始め県内で、公私共に頑張っておりました。ところが、1月17日のまさかの阪神・淡路大震災で、内海、川西、的場、岡、岡本君らが診療所や住いが、全壊または半壊に逢われました。被害が軽微だった人も含めて、家族や親類縁者、友人にいろいろと心配りが大変だったことと想われます。心からお見舞いを申し上げます。幸い生命に別状がなかったのが、不幸中の幸いでした。

しかしながら、敗戦の時と1月17日の地震の二度のショック、特に高齢を迎えた今回は非常なものだった。

50年で築き上げた地盤が僅か20秒足らずで崩壊するのですから、自然は美しくもあるが反面

恐ろしい。人類が自然を軽視した報いだらうか。今だに余震が来る度にビクビクしている。「備えあれば憂いなし」と言われて来ましたが、これからも物心両面の心構えが必要なようです。

同級生の皆さん始め、被災された方々、ご自愛の上頑張って下さい。(遠藤)

専27回 牧陵会

震災後9ヵ月がたって私の診療所の壁にひびががついている所が目立つようになりました。1月17日未明の数秒間の阪神大震災により神戸市が廃墟と化してしまいました。われわれ級友の消息を知りたいと思いましたが、通信、交通が不通で二、三日遅れましたが、全員無事と安心しました。牧陵会本部を初め各団体より義援金及び救済物資等を頂き、われわれ会員も2月3月初めには診療所、器械等を高橋進君の診療所は全焼し、ビルテナントの関係で7月やっと診療を再開する事が出来ました。9月23日、24日古稀記念高知クラス会(北陵会総会)開催で9月23日朝、気象情報では台風14号が九州、四国方面に接近する日に、神戸人会の森鼻君、西原君、壺坂夫妻、高瀬と5名新神戸駅に集合、大阪より乗車の級友と新幹線に乗車、岡山、高知、中村駅に到着しましたが、台風の豪雨、風が強いため、四万十川の遊覧は中止、バスドライブのみで、中村プリンスホテルに着きました。牧陵会稗田会長は昨年大病されましたが、今年はお元気で出席され、総会も円満に進行しました。総会懇親会は料亭『吾妻』で総計33名の級友が皿鉢料理をいただき楽しい懇親の会をすごしました。来年の牧陵会は山本君のお世話で加賀温泉郷で開催する事に決定しました。翌日高知市に行き『土佐藩』で昼食をとり、日曜市を見物して、来年の再会を約束して解散しました。お世話していただいた高知在住の長野、依藤君に感謝します。神戸人会々員も現在11人に減少しました。神戸人会では震災のため、今年一度も会合を開いておりません。一度親睦会を開きたいと思えます。皆様お身体には十分ご注意ください同窓会には必ず出席して、会のためご協力をお願いします。

(神戸人会 高瀬：記)

専28回

去る8月12日に兵庫県在住の同窓に集合をお願いしたところ、今井、岩本、金川、志築、西原、橋川、平尾、広瀬、瀧井の9名が出席して、夕食会をもつことが出来ました。阪神大震災以来初めてのことで、お互い無事を喜び合い、1月17日以後の様子に話が集中しました。欠席の諸君よりのお便りによれば、元気でお過ごし由。安心しています。やっと交通機関が回復した程度で、被災地の各所で復旧工事が盛んに行われている昨今です。もう少し時間がたてば、ゆっくりとお会い出来る機会が来ることと期待しています。

(専28回クラス会幹事 瀧井 源也)

専30回

平成7年の新年を迎え誰もがこの年の素晴らしいことを期待していたことと思います。成人の日と振り替えの連休が終わり、本気を出して働こうと思う間もない1月17日早朝、未曾有の大地震が発生したことの記憶は生々しいまま脳裡にきざみこまれ誰もが一時的に途方に暮れたことと思います。この大地震を阪神・淡路大震災と名付け今日に至っております。兵庫県みとわ会の先生方のうち私の知る限り15名の会員が被災され相互に連絡を取りながらそれぞれのご家族ご本人に怪我された方が皆無であった事は正に不幸中の幸であったとほっとしたことでした。しかし私の診療所・居宅と共になかなか電話が通じず、約1ヵ月余り息子の家に同居するはめになり、そこから県歯との連絡をとったり、友人や所属歯会の情報収集等が出来た。被災間もなく品川君から電話が有り、本来なれば今年三重県の当番で全国みとわ会を開催することが決まっていたのですが、この大地震で大阪とも話し合い来年に延期して今年大阪・兵庫のみとわ会被災会員を励ます会を開くことにしたいが賛同してくれないかとのことであったが、その時は震災後まだ数日しか経ってない状態で私自身気持ちの整理もついておらず他の被災された会員の考えもきっと大変なことと思ひ皆落ち着くまでは無理じゃないかと一応気持ちだけ有難く返事をしておいたわけで、まず、わが診療所の全壊状況の中での地域歯科医療と緊

急処置の事を考え息子が3台あるうち使用可能な1台を使って始めたわけです。幸なこと東西に長い診療所は昭和38年に建て替えた本鉄筋と平成元年に鉄骨で増築したその接合部らでねじ曲り南北のつぎ目の屋根に直径1メートル程の穴が2カ所もあき何はともあれその穴を塞がなければと思っていた所、出入りの業者がすぐに飛んで来てくれ応急に青いビニールで何とか雨が洩らない様とつくろってくれ感謝したものです。待合室、トイレ、もちろん電気、水道、ガスもなく、松本の友人が何時間もかけて持って来てくれた移動式ポータブルチェアー水は汲み置きを、ガスはアルコールランプで午前10時から午後2時まで荒れはてた中で毎日来るかどうかわからない患者を待って頑張りましたが、何しろ傾いた診療所の周囲の人家は全壊、全焼と80軒以上の家屋が無くなってしまい、魚崎北町5丁目に居住する人びとは皆無となってしまっている中での仕事、その気が起こっても相手がないという極めて厳しい状況が何ヵ月が続きました。その間、何回か品川君から連絡が入り、その熱意ある言葉に接し兵庫県のみとわ会の人びとを察して半年後の6月3日に罹災会員を励ます会全国みとわ会が大阪東洋ホテルで開催されることになり、全国から多数ご参加をいただき、それぞれに励しの言葉を頂戴し、杯をかわしたひと時あの忌まわしい大地震を忘れ旧交をあたため、おたがい励し合い大いに元気が出た様に思ったものです。それにしても決して忘れてならない事として全国みとわ会の皆様からよせられた義援金を大阪府と兵庫県の罹災会員に対して頂戴したこと心より感謝を申し上げ決して忘れてはならない事だと思えます。

今回は震災関連を中心とした特集ということの様で余り楽しい記事にはなりません、私達がこの一生のうちで今回の様な都市型で直下型大地震に2度会うとは考えられませんが、この貴重な体験とその時の人情の厚さ有難さを決して忘れることなく私達に残された人生を日々噛みしめ乍らすごしたいと思っている今日此頃です。兵庫県みとわ会の先生方テナントの全壊による診療所の閉鎖、居宅の全半壊一部損等それぞれに大変であった事、私も自らの出来る限りの中で見て廻りましたが本当に大変だったと思

います。しかし今、皆が気持ちを一つにして、復旧から復興へと歯科医療機関たちが上がりも90%をこえて21世紀に向けての力づよい再出発が始まっています。

今回、大阪歯科大学兵庫県支部を始め罹災会員の対応について全てに感謝の気持ちを忘れることなく明日の希望に向かって歩いて行きたいと思いつつ。また合うことを約して筆を置きます。

感謝、感謝

(専30回代表幹事 関川 健)

専32回

我々の年代は一度戦災というもので破壊のすさまじさを体験してきた。それから50年を経た今、全く想像しなかったほんの数秒で5500人を超える死者、19万の損壊家屋を出した兵庫県南部大地震に遭遇した。

最近、本に五木寛之の“生きるヒント2”の中で“近頃世の中がどうも不穏な気がします。まず天候がおかしい。国際政治が大変動をおこしつつある。民族紛争、宗教戦争とそして世界中で経済がおかしくなっている”と読んだばかりである。今回の災害は人間が人間同志を大事にせず地球を大切にしない思い上がった態度によって自然の怒りのつけが回ってきたと思われてならない。

平成7年1月17日からはや9ヵ月。災難を受けられた人びとは世の中は「無常」と言うであろう。瀬戸内寂聴は同じ状態が続くことはありません。あの幸せな生活が一瞬のうちに壊され、なぜ自分だけがこんな目にと腹も立つでしょう。一寸先は闇です。でも無常はそれと同時に悪いことも続かないと解いて励ましている。

我々大歯兵庫県三二回は8月26日に神戸ハーバーランド「木曾路」にて会合をもった。

久し振りに色々語り合い、全国32回よりの義援金をお渡し更に、中塚裕君の藍綬褒賞受賞のお祝いもしたいと夕方pm5:00より20余名が集まった。32回本部より上田君、木村君がかけつけてくれ、診療所、自宅共全壊の宇賀君や、診療所全壊の清水保則君、(自宅全壊で傷(骨折)を負った田中克人君は欠席)その他、診療所、自宅半壊の10数名の諸君が何時もと変わら

ぬ元氣な姿をみせてくれ大歯兵庫県三二会の明
るうれしい包圍氣を実現した次第である。
(藤本和夫)

医 定

被災された各位に心からお見舞い申し上げます。

私達も、診療所、二世帯共全壊で私達は家屋の下敷きになってしまいました。息子家族も自宅破壊の中から傷害もなくぬけ出し施参してくれまして「おちい様。おばあ様大丈夫か」と。「大丈夫だ」と申しますと動かずにそのままといひ乍ら掘り出してくれました。「九死に一生」と実感しました。近くの公民館へ。夕方に西宮の次男が交通渋滞4.5時間かかって迎えに来てくれまして。次男宅へ落ちつきましたが、次男家族は嫁の実家へ移り住む事となり、「庇かりて主屋を取った」事になってしまいました。この宅も台地がいたんでおりますのですが住むのに不自由がありませんでしたが、水、瓦斯はもとより何かと不自由で、毎朝、毎日、水汲みと、被災跡へ掘り出し整理に交通不便の中、通う息子達家族でした。息子の友人、同業者、孫達の学友が手伝いに来て下さり、特に同業者の女医様が、不自由の中、手造りの昼食を持参、皆に振るまって下さり、瓦礫の上でホウ張る、日々を聞き、友情、人情の温かさの機微を胸が痛む感激に、家内と合掌の毎日でした。「遠きの親戚より。近くの他人」とよくいったものです。私達幸い仮設住宅が当たりましたので3月半ばに移住しました。年のせいで優先らしいとの事です。息子家族は仲々当たりませんが、現在、友人の小さなマンションを借り、居住しております。

私たちの消息を、テレビの探ね人放送で探ねて下さり、電話や、遠路わざわざご来訪、お見舞い下さり紙面をかり、誠に失礼ですが厚く厚くお礼申し上げます。(東灘区 石崎彦介)

京 城

初秋の頃となり、ようやく落ち着きました。

診療所全壊、後継者の息子のアパートも全壊でした。なお、私の自宅の奥の一階一部屋が全壊で、それは、そのままにしております。お隣りとの道路の壁が倒れたのは一番に修理をして現在完全です。診療所は、現在、後継者の息子が、プレハブで、診療しています。一家五人が何事なく無事だった事を常に感謝しています。

巻幡寛人(京城)

大1回(一黎会)

「活断層」

未曾有の大災害をもたらした悪夢の様な「阪神淡路大地震」、あの日崩れ落ちた街並みを見て、かつて自分が通ったあの町、暮らしていたあの家、笑って過ごしたあの場所が変わり果てているのを見て茫然自失しました。そして生命、住まい、財産、仕事、心身機能など貴重なものを失いました。しかし全国から人間愛と連帯意識に満ち溢れた暖かい物心両面の支援により震災より9ヵ月、春が過ぎ夏が過ぎそしてもう秋。砕かれた日常が徐々に戻ってきて、あらわになったものがふたたび覆われていく。生きていてよかった。命があっただけでうれしい現在そういう心境です。

さて、わが一黎会会員の阪神間在住のほとんど總べての諸兄が、診療所または自宅の全壊、半壊、一部損壊を受けましたが幸い人身に事故がなかったのが何よりの幸いでした。その節には被災地以外の一黎会の皆様より心暖まる多額の義援金のご支援を頂き、その友情に対しまして、厚く御礼申し上げます。

震災は人びとの物に対する価値感を変えさせました。宝石や豪華な衣装は虚飾でしかありません。人が生きるために必要な本質は何なのでしょう。その本質を忘れた時、人は驕れるものとなります。地球の生産する物量以上のものを人が求めるとき、地球の生産する物量以上のものを人が求めるとき、地球は破滅に向かっています。“天災は忘れたころにやってきます。”

熱し易く冷め易い吾々はこの格言を忘れないようにしたいものです。(山田 旺)

大6回 六箇会

この度の震災で診療所が被災した同窓生は神戸市では上田春満、森岡久樹（以上東灘区）、瀧井佐智子（灘区）、河畑邦夫、佐藤莞爾、西原利和（以上中央区）、永井愛正（長田区）、西條晃（須磨区）の各君。西宮市では河村宏、北村博司、山本知の各君です。幸いにも、淡路には被災同窓生はおりません。私たちの同窓会（六箇会）は、被災された同窓会に見舞金、義援金を送り、復旧を祈りました。震災後8ヵ月を過ぎた現在、とくに、診療所が全壊した森岡君と全焼した永井君が悪夢のような体験から立ちあがり、頑張っておられますので、近況についてご報告させていただきます。

森岡久樹

平成5年7月全面改築した診療所が、この度の震災で全壊した。被災地は区画整理地区に指定されたため、5月より診療所跡に仮設診療所を建て診療しております。

来院していた患者さんの死亡者も多く、街は過疎になった上、道路規制（診療所は国道2号線に面している）も加わって、患者数は激減しています。このままでは赤字続きで、この先不安でなりません。

永井愛正

震災で、長田区の医院が全焼、周り一円は焼け野原で死亡者も多く、生存者は他地区の仮設住宅へ移動。また、被災地は区画整理地に指定されたため、当地での早期復旧は困難となりました。従って、6月より下記で開院しました。地区を移動したため患者数は激減しています。患者の半数は長田区関連の患者さんです。

（診）神戸市北区鈴蘭台北町1～4～2 2F
（大矢信夫）

大10回（ひとわ会）

これは徒事ではないと判断するには、やはり何秒かの時間が必要でした。家族の者が騒ぎだし、近所の人達の叫び声がしだいに大きくなり、一瞬にして、パニック状態になった。激しい揺れがおさまり起きようと思ったが、起きられない。大きな仏壇の下敷きになっていた。仏に手を合わさない私は、ついに罰が当たったと思った。まだ辺りは暗く、停電の中、あの戦争中の恐怖が甦ってきた。ガス管が破裂し、シューシューとガスが噴出している。タバコを吸うなど誰かが叫んでいる。瓦やガラスが落下して、不気味な音が聞えてくる。陽が昇り、辺りの様子がはっきり見えてくるにつれ、その惨状は、極めて深刻なものであり、被災地は阿鼻叫喚の地獄と化したことは、周知のとおりであります。

そんな恐怖と虚脱の最中、“ひとわ会”の奥田会長、森田総務より即刻電話が入り、“どうしているか”“大丈夫か”“何か欲しいものはないか、遠慮せず何でもするから言ってくれ”との友情あふれる言葉が耳にとびこんできて、その迅速な対応に、ただただ感謝感激のあまり、かえす言葉も出てこず、絶句してしまいました。その後、兵庫県支部会員の消息と被災状況を出来るだけ早く知らせたいとの要請を受け、電話事情の悪い中、公衆電話などを使って、森田総務とたえず連絡をとりあって、情報収集に当たる一方、本部では全国ひとわ会会員に、義援金を募り、大多数の会員より多額の義援金をいただきました。忘れもしない2月17日、奥田会長と森田総務は、まだ余震のつづく瓦礫の神戸の街まで、わざわざ義援金を持参していただき、ただただ頭の下がる思いで、同期の心温まる友情をしかと頂戴し、何とお礼を申し上げたらよいのか、言葉もございませんでした。早速、被災会員にお渡しして、大変喜ばれ、感激恐縮されたことは言うまでもありませんでした。暗澹たる心の中に光明を見出したに違いありません。兵庫支部には、現在45名の会員が在籍しており、今回の大地震により、その成行を心配しておりましたが、誰一人として、脱落する者もなく、仮設診療所などで、診療を開始しており、ほっと安堵している所であ

ります。

さて、地震発生後、9か月が過ぎた今、静かに当時を思い出し、決して忘れてはならぬ事は、今回の未曾有の惨事に対して、いち速く、果敢に対応して下さった“ひとわ会”役員の方また、それにすばやく呼応して、全国ひとわ会の先生方より友情あふれる真心を届けていただいたことで、心よりお礼を申し上げる共に、深甚なる敬意を表する次第です。

地震は条件さえとのえれば、いつでも無遠慮に発生し、無慈悲にして不公平、冷酷無惨であります。そこには、人類の英知もはるかとかめ次元の異なる自然の営みがあり、今回の大地震ほど自然の恐ろしさを、まざまざと教えてくれたものはないと思います。そしてこの自然からの啓示を境に、はからずも美しいものと醜いものとが、はっきりと見えてきたと思います。今、被災した神戸の街角に立って、遠い未来に美しく変貌するであろう防災都市、神戸の町並みや風景を夢みて、生き残れた幸をかみしめている昨今であります。

(ひとわ会 兵庫県支部 幹事長 水田吉彦)

大10回

阪神大震災に際し同窓会諸兄諸姉のご支援を感謝しております。

私の診療所は阪急伊丹駅の中にありました。
・診療所は全壊、自宅も半壊に近い状態です。
・震災当時は状況の把握が出来ませんでした。
・大きな地鳴り大きな揺れに続く大響音の後の不気味な静けさと墨を流したような暗闇の中で何が起こったのか理解出来ませんでした。停電が復旧したのは約2時間後、すぐにテレビをつけた私の目に常日見慣れた風景がとびこんできました。なぜ阪急伊丹駅が画面にうつっているのか分かりませんでした。場面が移動するに従い、駅舎が崩れ落ち電車がその上に落ちこんだ事実を知りました。すぐにとんで行きたい気持ちはありましたが、7 Km離れた現場に行く交通の手段がありませんでした。2日後、徒歩で現場に行きましたが、ちょうど車輪を大きなクレーンでつるしている所でした。自分の診療所の中に入ろうとしても警察官、消防士に阻止され中に入れませんでした。

これはいけないと仮設診療所の事を考えて友人の凱旋屋を訪れた。ここですでに敷金、家賃のボールペンで修正された値上げの事実を見せられた。自分の意志で診療所の再建を計画出来る自宅開業の方と違い開業はオーナーの意志に左右されます。毎日、胃腸薬の必要な日々が続きました。60歳近くなり老後の事を考え始めていた矢先の出来事、再建は大変でしたが自ら鞭打ってガンバっています。再建時も値上げ、職人不足等で計画の変更も度々でした。あてにしていた共済金も日歯関係が手続上駄目になり資金繰りも大変でした。

このような逆境にあっても最も嬉しいのは友情でした。近くの親類より遠くの友人の支援が有難かったのです。このような時にこそ見せかけでなく本当の人間性が出るのがよく分かりました。震災を思い出すのも文章を書くのもまだ大変辛い状態です。頭の中はまだ混乱してまとまりがつかず乱文の程おゆるしいいただきたいと思います。

自助努力、ガンバレという気持ちで毎日過ごしています。(伊丹 上田 新一)

大14回

それは不気味な地鳴りとともに始まった。想像を絶する大きな衝撃と揺れにどうすることもできない身体は上下左右に飛び跳ねた。わずか10秒程度でおさまったときにはすでに家が大きくひずんでいた。開かなくなった部屋の扉、壊れた階段、菱形に歪んだ玄関、窓を壊しに外に出た。未明の屋外では周囲の状況がはっきりしない。しばらく寝間着に素手で手足に怪我をした状態で茫然としているだけであった。当たりが白み、周りが明瞭に見えてくるに従い、昨日とは違いあまりの異様な光景に、驚きと嗚咽の声が随所から聞こえる。停電、電話の不通、吹き出す水、ガス臭、負傷者、死者、火災など、信じ難い大惨事である。周りの人とともに息子は埋もれた人を瓦礫の中から掘り出しに励んだ。幾人かの人はずすでに息が絶えていた。近所の公民館や学校は遺体と避難者とが一緒にされている。負傷者の手当にあたっている近所の医師も満足なことはできない。以後しばらくは道端で配られるおにぎりや、ボランティアの恵

み、区役所からの罹災食、ひいては多くの同業お仲間からの熱々手作りの食事をいただくことがしばしばあり、大変ありがたく感謝にたえないものだった。震災状況をテレビの向こうから見ている人びとには全く判ってもらえないことであろう。

凍てつくほど寒いこの時期に毎朝、近所の小川や雨水で生活用水を、また、駐屯自衛隊のタンク車まで飲み水の確保からその日が始まる。よくない道路事情のおかげで瓦礫や倒壊した建物の間を潜り抜けるように歩いて非難所から壊れた診療室や自宅跡に出かけて後始末をする。震災後しばらくはいたるところで、放火、物取り、交通違反、その他諸々、少々のことでは咎められることはない無法地帯と化した被災地ではあったが、落ち着きを取り戻した最近よりはうんと事故が少なかった。

気の遠くなるほど多くの事故処理をしなければならぬため、朝から区役所に並ぶ。他府県からの応援窓口が対応する。行政もこんな前例の無い事情にその対応は、日毎に内容が異なり、情報不足と伝達間違いのおかげで実に効率が悪かった。

近隣府県の先生方が来神され市内を歩いて視察された。被災現況を目のあたりにされ、報道と実際との大きなギャップに驚嘆された。テレビの報道なんてどれくらいいい加減で、こんなひどい事態でさえ視聴率に結び付けたアレンジが成されドラマ化されていることを今回ばかりは痛感させられた。私達が奥尻や雲仙の状況をテレビでしか知らないのと同じであろう。震災約十日後、久しぶりの入浴のため尼崎あたりの銭湯に行った。すでにそこは別天地であり、このあたりでは地震は過去のものだった。天災はなんと不公平なものか、私達だけの魔の1月17日だったのか腹立たしく思えたものである。

そう言いながらも、4月半ば過ぎ、やっと私の仮設診療所や仮住まいが出来た。あらためて多くの人びとからの暖かいお励ましに感謝いたします。また、とくに同級生の皆様方には身に余る大きなご援助ご厚情を賜ったことを、本誌をお借りしまして個人的ではございますが改めてここにお礼を申し上げます。

私達の大地を揺るがし、深い傷痕を残した阪

神大震災は、多くの人びとの貴重な記録とともに数々の思いやこだわりをいとも簡単に破滅消滅させた。人類は長年の間に得られた知識と経験を生かし、育まれた英知のおかげでいまでは化学文明の進歩発展には目を見張るものがある。その結果、最近では地球表面の温度を上昇させたり、オゾン層の一部を破壊してみたり、人為的大洪水を発生させたり、珍種の魚などをつくったり、私達の幼かったころには思い付かなかったことをたやすくやってのける、およそ不可能が無いくらい人類は万物の頂点に君臨している。しかし、地震という地球発生時からのごく当たり前にみられる実に有難く無い自然の現象の前には難無く屈することしか出来ないのも人類である。今回の地震による悲しみを乗り越えて生活再建に直向きな努力を続ける被災地の550万人は、自立復興に対しそんな英知を今度ばかりは有功利用できればと思っているのだが。

(石崎順啓：記)

いちご会 (大15回)

未曾有の大地震から早や約1年近くが経過しようとしています。あの時の信じられないような光景が今なお脳裏にインプットされています。

われわれ「いちご会」の会員36名一人も死傷者が出なかった事が不幸中の幸いと思っています。しかし川一つ越えたら被害程度が全く異なった不条理さ…。全壊4名を始め半壊、一部損等何らかの影響を受けました。

今回の震災に対し「全国いちご会」が救済募金活動をしていただき「兵庫県いちご会」本年度総会(6月10日)を開催致しました席上、全国の仲間の心暖まるご好意の義援金を被災会員全員に分配致しました。

思えばいち早く励ましの電話を掛けてくれた仲間、交通が寸断された中重い荷物を背においてかけつけてくれた仲間等々、人の情を改めて知る事が出来、心から「ありがとう」の言葉が出てまいりました。

これからの生活の変更や医院復興には、年齢的、経済的なりミットの現状下多くの障害があ

ると思われます。特に我々会員が集中しています神戸、阪神地区においては、南北約2km東西約30Kmのベルト地帯に被害が集中し周辺人口の流出により、いつ元の状態にもどるのでしょうか。

お互い仲間としての横のつながりを密にし一日も早く元の状態になるよう夢を持ちがんばりましょうよ。

(入江恒夫)

大17回(つづな会)

阪神大震災・私の体験

平成7年1月17日、午前5時46分、突如未だかつて経験したことのない激しい横ゆれで目を覚ました。自宅は東灘区の高台のためか、縦揺れはあまり感じなかったものの、遊園地の子供の乗る、自動車か馬に乗ったような激しいゆれが約20秒程続いた。電灯は消え、懐中電灯とローソクの火で、室の様子を見回したが、たいした被害はない。海沿の方を見ると、まだ20分程しか、たっていないのに、すでに6~7カ所より火の手が上がり、序々に拡大し、黒煙が上がっている。しかし街は静かなもので救急車、消防車等のサイレンもなく、不気味な程静かである。診療所の様子を見ようと、診療所へ向かうのであるが、わずか100m~200m下がると様相は一変した。道路は地割れし傾き、大きな段差が出来、いたる所で寸断されている。高架は落ち、電車は傾いている。木造家屋のほとんどがペシャンコにつぶれ、傾き、ひびが入っている。2階家は1階となっている。私の診療所も木造で母親の居宅ともなっているのも、もしかして!! 這々の体で到着、むりやりドアをこじ開け家に入る。瞬時にして瓦は崩れ、壁は落ち、天井は裂け、家財は倒壊、ガラスの破片が散乱、足の踏み場もないとはこのことか、母親は1人茫然としているが奇跡的に怪我の一つしていない。無事を喜びあったのも束の間、隣りのアパートは全壊2階が1階となり道路を完全に破っている。内から人の声が聞える。近隣の人々と2人程引っぱり出し車で病院に運んでもらう。後まだ3名埋っているはずだという。道具も無し人の力ではどうする事も出来ない。頻発する余震に2次災害を心配しながら、事実3

人を掘り出したのは2日後、自衛隊員13名で半日以上かかった。当地区はビル、家屋も全壊で市場も消滅した。当初は避難所や病院、警察を廻り亡れた方の連絡等に走り回った。10日程して検診車が来るとのことで、少しでも役立てばとの思いで、応急処置、歯科相談等に出務しながら、仮設診療所での再開を急いだが、治療を始めたのは5月に入ってからである。

その間、全国のつづな会の先生、先輩の先生等多くの先生方にあたたかい励ましや援助をして下さり感激しております。6,000人を越える尊い犠牲者を無にせず、復興に向け、患者とのコミュニケーションを大切に、共に助け合う事の大切さを痛感しているこの頃です。

(上田勝利)



大18回

兵庫県とわ会の皆様その後をお元気ですか。

第24回とわ会同窓会は北海道にて開催する予定を急ぎょ大阪に変更し7月8日(日)にホテルプラザにて阪神・淡路大震災被災会員を激励する会として開催しました。63名の参加者のうち19名の被災者が出席され、上村君が代表してお見舞いのお礼を述べました。彼の話があらためて震災のものすごさを知った人もおり、今後の対応をどうすべきか教訓となったようです。お見舞金についてはとわ会本部から全国のとわ会の同窓生に、義援金の依頼をした所310万円の義援金が集まり以下の通り分配されました。

- ◎ 自宅または診療所の被害が甚大な方11名の方に30万円
- ◎ その他の方34名に1万円

ただし災害地域内に自宅か診療所があり淀川より以北以西で、かつ兵庫県と隣接する地域で西は明石市（三木を含む）迄のとわ会会員で何かの被害を受けた方に送りました。また不足分は本部とわ会より補填して頂きました。

9月末現在、仮設で診療中の方もおりますが、病気療養中の坂口君、堀川君を除き全員仕事ができているようで安心しています。まだまだ阪神間の完全復興は遠く、きびしい生活が続くでしょうが、お互いに健康に留意して頑張りましょう。

報告事項

- 1) 白砂兼光君が11月1日付きで長崎大学歯学部の間接外科教授に就任しました。
- 2) 9月末現在で休診している長期療養者は池畑勝君、坂口美樹君、砂田雅彦君、田口洋見君の4名です。早期の快復をお祈りします。
- 3) 来年のとわ会は北海道での開催が決定しています。多数の参加を期待しています。

(和手：記)

大18回

午前5時46分

ドンドンドン、真っ暗な中、突然に激しい揺れの中で、驚いて目覚めた。直ぐ地震だと気付いた。炬燵の側で寝ていたの、その中に入った方が良いかと思ったが、土壁が壊れないので、そのまま寝ていた。2階にいた家族の足音がしたので、たいしたことはなからうと眠ってしまった。隣の台所で、ガチャガチャと瀬戸物やガラスを、箒で掃いているような音がしたので、目が覚めた。私の室を出ると食堂で、そこは、おそらくガラスの破片が飛び散っているだろうと思った。今、起きてもしかたないと思ったら、また、眠ってしまったらしい。家族の「マァー」と言う声や「まだ寝てる」という声があった。布団の囲りを見渡すと、足の方には、本箱が倒れ本が散らばっていた。頭の方には、出窓に置いていたガラスの人形ケースがあった。室のすみにあったテレビは、台に車が付いたので、直ぐ側に来ていた。食堂を見ると、食器棚のガラス類で、それこそ足の踏む場がない

状態であった。電気が使えたので、掃除機で吸い取り居間に行くと、本棚が壊れて室の中央に倒れていた。洋酒の類は、一番下の棚に入れていた。真っ先にその無事確かめた。

テレビで地震のひどさが判明。診療所のあるビルが映ると「あった、あった」と歓声をあげ、猛火がビルに迫ると悲鳴をあげたり「マダ、マダ、煙だけだ」と少しでも安心しようとした。1日中テレビの前には誰かがいて、情報を大きな声で伝えたり、他の者は、それぞれに片付けたら、食事の用意等、手分けして動いた。水道管に水が残っていたのか、暫くは水が出た。風呂まではいったのである。まもなく台所から悲鳴が「水が出ない」。自衛隊の給水車が近くの小学校に来た。全てのバケツ、ポット類を握って走った。

そのうち、電話が通じるようになると、方々から、安否を確かめあったり、励ましあったりした。その中で、元従業員が電話をかけてきたのがあった。彼女は結婚をして、兵庫区に住んでいる。彼女の長田区の実家が全焼して、両親や妹が避難してきたという事であった。父親は鈴蘭台の病院に入院していたが、長田区の火事をテレビで見ると、直ぐ家に駆け付けた。車の中に、手当たりしだいに家具を詰め込んで、家が燃える寸前まで活躍したとの事。彼女の家で運び込んだ物を整理してみると、妹のセーターの袖が焦げていたという。夕食の時、その話を家内がすると、子供たちがフーンと言って、私の顔を覗き込んだりした。

交通がとだえるなか、苦勞して診療所に行ってみると、ビルは全壊であった。頭の中、真っ白、お先真っ暗という日々が続いた。

(長田区 山中祥弘)



大20回

震災からはや9ヵ月たちました。被害に遭われた先生方のその後の復興は如何でしょうか。お見舞い申し上げます。

私の診療所のある西宮市仁川地区も震災の被害は大で、特に仁川渓谷に近い仁川百合野町で起こった被害は悲惨なものでした。土の中に埋もれてしまった家から出火したのでしょうか煙が立ちこめていました。地滑りで流された土砂の量ははかりしれず、山の形は跡形もなくなり風景はすっかり変わってしまいました。被害に遭われた方々の中には私の診療所にかかっておられた方も数人おられました。私の診療所は仁川の川沿いにありますが。幸い建物自体に大きな被害はなく内部を処理すれば診療を再開することが出来る状況でした。川の上流に百合野町があるので、診療所の前の道路は連日救出に向かう車のサイレンの音で騒がしく、余震も加わってビクビクしながら診療所内の整理をしておりました。

地震後、テレビでは連日百合野地区の救出状況を報じておりました。室内をかたずけている時一本の電話が入りました。遺体が出そうなので確認をして欲しいとの親族からの依頼でした。翌日遺体がでたとの知らせがあり瓦木中学体育館まで行きました。事前に依頼があったのでカルテを出し、パノラマを見て準備しておりましたが、いざ実際に遺体確認に行くとなるとあまり心地良いものではありません。あの時期みんな大なり小なり心の平静を失っていたのだらうと思います。一人では不安ですので、お隣の法貴 正先生(大10回)に同行をお願いしました。先生には家屋が全壊したため、散逸したカルテ等の整理でお忙しい中無理をきいていただきました。遺体の損傷は頭蓋骨顔面骨の骨折もあってひどく、一見すと確認は困難なように見えました。しかしカルテとパノラマの所見からして確認はさほど困難もなく出来ました。不幸にして確認を依頼された方のご子息でした。

遺体確認のための情報提供の依頼は、あの普賢岳の噴火の時に経験しました。火砕流で焼死したカメラマンの遺体確認の為、島原警察の依頼で遺体本人と思われる患者も患者のデータと

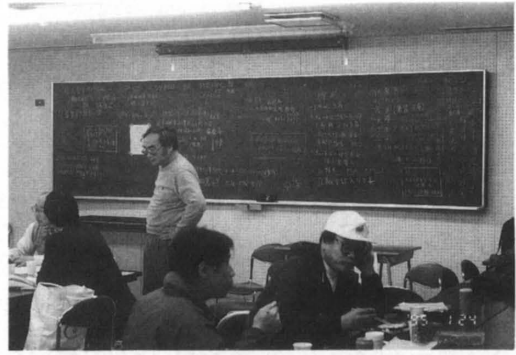
パノラマの情報をファックスで送ったことがあります。その時も歯科的なデータが大きな役割をし、本人と確認できました。

遺体確認と言う悲しい事ではありますが、我々歯科医の情報がお役にたてることは嬉しいことです。自分が行った治療記録のみならず、治療前の現症の記録を残すことの大切さを痛感しました。(山本一郎：記)

大23回 慈山会

阪神・淡路大震災直後からお寄せ頂きました慈山会の先生方からの暖かいご声援、ご配慮に厚くお礼申し上げます。本年は卒後20周年の記念式典を開催する予定がこの震災のため中止となり残念でなりません。しかし被災地域の中でも診療所の全壊に伴い他市への移転や仮設診療所にて不自由な診療をなさっている同級生もおられます。直下型地震ということで被災地域でも、壊滅的な損害を受けた所と、外見的には無傷の地域とが混在しています。しかし外見は無傷に見えても壁やガラスの損壊、パノラマ転倒等の機器損壊は被災地域全員に見られます。地震発生後、電気ガス、水道というライフライン並びに交通が寸断され被災地域の慈山会の先生の安否が心配で、電話をかけてもつながらず、県歯科医師会に問い合わせをして全員が無事であることを確認し安堵しました。私自身も他地区避難所へのボランティア診療に携わり少しでも役に立てた事を幸せに思っています。震災後、早や8ヵ月が経ち、復興、再建に向いての槌音が、力強く響き、街には少しずつ活気と賑わいが戻りつつあります。しかし仮設住宅が建ち並ぶ光景は、昔の神戸の街とは程遠いものです。仮設で不自由な生活を送っておられる人びとが、早く元の場所で住居を再建されることを祈ってやみません。我々歯科医にとって住人のひとびとのつながりが、地域医療に貢献できる唯一の方法であると思いますが慈山会の皆様、よろしく叱咤激励をお願いします。

(糸永茂雄：記)



大23回

阪神・淡路大震災に際しての警察歯科医として活動

私は警察歯科医会からの出務要請によって、1月24日から26日の2泊3日に亘って神戸に行きました。水もガスもダメで、自分で飲料、水、寝袋、を確保せよとのことでしたので、それらを準備して行きました。24日9時に三田署の車に乗せてもらって出発しました。新六甲トンネルに入ると、どんな神戸になっているのか、今までの神戸ではないのかと思いながら貫けると意外と平生な感じを受けました。しかし、さすがの三の宮付近になるとテレビで見たとおりの未曾有の震災後の神戸でした。これは本当に大変な事が起こったんだと胸をつまらせました。12時過ぎに警察歯科医会の本部のある兵衛会館に着きました。ちょうど前班の人が慌ただしく出勤する時で引き継ぎが出来ず、私達は何をしたらよいかわからず、立ち往生していました。そうしているうちに、誰からの指示も分からないまま警察の先導で出動したが、パトカーはサッと行ってしまって、私たちはおいてきぼりにされ、渋滞に巻き込まれて身動きが取れず、現地村野工業高校に着いたのは大分過ぎてからでした。ここでは検死されていましたので口腔を開口させてしらべるといったなまやさしいものではなく、ご遺族には申し訳なかったが、ピンセット、パールで口唇付近の組織を引き裂いて調べたのが現状です。その経験をいかして、後日のために次のようなことを申しつぎしました。取り調べる3時間前にドライアイスを取り除いて少し解冻させる。

調べるときはヘアードライヤーの温風で解冻

をして、開口し易いようにする。翌日の25日は須磨寺の安置所に行きました。その道中で、あまりにも悲惨な現場を見てぼうぜんとなりました。自然の凄さ、人工物の脆さを感じました。そこでは検死が8件ありました。解冻して開口しやすくなってよく調べることが出来たのですが、ホルマリンの臭いがきつく、身体にしみ込んで気持ち悪くなりました。その日の役目も終わり、4時頃会館に帰り、朝から何も食べていなかったので弁当を食べたのですが、昼間のホルマリンの臭いが鼻に劈き、胸が悪くなり食べられませんでした。そして皆とは別の部屋で一人寝袋に入って寝転んでいたが、11時過ぎ震度4の揺れで吃驚して起き上がり、皆のいる部屋にトンで行き、皆と一緒に騒ぎました。そして26日は待機していたのですが、検死の要請もなく、11時頃次の班が来られたので引き継ぎをやり、12時過ぎに三田署の方が迎えに来てくださり無事帰宅できました。被災地区の会員の皆様は震災に遭遇したものでない分からないご苦労の連続だったとご心中お察いたします。これからも大変だと思いますが決して急がず、自らの足元から一步一步前進して下さい。

(北野榮一郎)

大27回

平成7年1月17日午前5時46分、兵庫県南部を襲った、あの阪神・淡路大震災から約10ヵ月が経過した。甚大な被害を受けられた方々には、心よりお見舞い申し上げますと共に、一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

兵庫県飛翔会（大学27回）では、震災直後から井口会長をはじめ、各々が会員の安否の確認を行ったが、幸い重大な被害を受けた者も少なく安心した次第である。その後、兵庫飛翔会では、何が出来るか、何をすべきかをあれこれ考えたが、結局、兵庫県同窓会に飛翔会会計から20万円を拠出させていただいた。

また、兵庫飛翔会では、毎年、総会を開催しているが、今年は震災の影響で延期になっていたが、10月28日（土）新神戸オリエンタルホテルで開催の予定である。（神田孝平：記）

大28回

庚申会の皆様お元気ですか。あの悪夢のような大地震から、はや一年が経とうとしております。大阪の庚申会々員にも被災された方々があるにも拘わらず、大阪、京都の方々には、庚申会々員とご家族が無事かどうかを確認するのに、あの電話不通状況の中で、情報収集にあたって戴き、大阪で特別対策委員会を作ってすぐにそれを開催して戴き、ほぼ1週間でもかなりの被害状況がわかりましたので、対策委員会と庚申会役員が、お見舞金を送る人を決定し、各自に10万円ずつ見舞金としてお送り致しました。3月より同級生のための義援金を募ったところ、120万円集まりましたが、これをどうするかについては、庚申会兵庫県支部に一任ということになりました。7月によく決定し金額の多少に拘らず、送られた同級生の心を大切にして、多くの被災者の同級生に金額を分配することになりました。西藤君には本当に苦勞をかけました。今、思えば、緊急時の対応は、よくあんなに早く庚申会全体の把握が出来たのは、仕事を中断して、何回も何回も電話が通じるまでかけ続けた同級生が何人もいてくれたこと、それをワープロで眠らずにまとめてくれた人、1995年の同窓会の準備委員会を緊急対策委員会として、役員会と連絡をとってすぐに集ま

ってくれた人びと、）あえて名前は書きませんが）の信じられない程多くの努力があったことは、本当に筆舌につくし難いことです。またこの義援金の中には、ほとんど同窓会には顔を出したことの無い遠方の同窓生からの多額のお見舞いも含まれていて、本当に他府県の同級生がどのように動いてくれたか、一度集まって報告したいと思っております。その時には、ぜひお顔を見せて下さるよう、お願い申し上げます。

寒さが厳しくなりますが、兵庫県の皆さんが元気で頑張ってくださいことを心よりお祈り申し上げます。（永谷敏：記）

大29回

兵庫県仁玖会の皆さん、その後いかがお過ごしですか？

まず被災されなかった方には、大変ご心配をおかけ致しました。仁玖会に義援金を送って下さった人も多いと思います。ありがとうございました。

震災後、仁玖会から義援金を集めているので被害の実情を調べてほしいと連絡を頂き、手分けして電話調査しました。さいわい診療所の全半壊はありませんでしたが、（開業後10年前後の所が多かったせいでしょうか）自宅の方は、全壊が2件、半壊が1件ありました。被災地に住む人、診療所のある人には少しずつですが全員に、被害の大きい所には多くということで義援金を分配してもらいました。ほとんどの同級生（141名）から義援金を頂戴しました。

徳島の安部君からは、住まいのご提供あり、他の同級生から働く場所の申し出もあったそうです。

平田君はハブラシをバイクに積んで、林君、栗原君は炊出で、他にも個人的にボランティア活動に参加した人も多くおられました。

名前を聞いただけでも、懐かしい同級生が、この時とばかりに心配してくれて、援助の手を差し出してくれたことに感謝しています。

最近になって、もう一度義援金を集めるという話を頂きましたが、私の独断で「少しずつ落ち着いてきているので、今回はご遠慮します。」と申し上げておきました。詳細はまた、報告します。

今度のことで、仁玖会の打ち合わせの会合に参加しましたが、日曜の朝9:00から大学の会議室に、何度も集まり、予算が少ないとのことでジュースも出すことができないまま、長時間話し合いをして頂きました。

会費が未払いの方がいましたら来年からは忘れず払いましょう。

なお、赤井君と相談の上、平成8年初めに、神戸で集まろうということになりました。また連絡があると思います。

その時まで、被災された皆さんのご自宅や診療所が元に戻っていますようお願いしています。(坂本逸治)

大30回 (三寿会)

1995年1月17日夜も明けやらぬ早朝、千年に一度と後に言われた大地震が兵庫県南部地域に発生しました。我々には予期せぬ“まさか”でした。地震直後余震の中、家の外を見に行きましたが予想に反して、あまりにも静かな夜明け前で逆に不気味な感じでした。完全にライフラインを寸断され初めて味わう恐怖心に、止まれず私は友人宅に非難しました。

我々大阪歯科大学30回生(三寿会)では、兵庫県内に30名以上(他府県勤務者含む)の会員が住居しており安否確認のため、連絡が取れない状態が数日続きました。しかし、他府県には容易に電話が通じるため三寿会本部での情報収集をお願いしました。情報源を整理の後、未確認としながらも1月25日には第一報の会員被災状況を手にすることができ、一週間後の第二報ではさらに詳しく会員の安否が確認出来ました。また、震災翌日より三寿会本部に国会会員より430万円もの義援金が届けられ、同窓生への感謝の念が込み上げて来ました。これら義援金は後日、県内外の被災会員29名へ被害内容を配慮し分配されました。今回の予期せぬ震災で、卒業十数年後に改めて同窓会の暖かい思いやりや絆に触れ涙が止まりませんでした。機会がありましたら、同窓生にはお礼を述べるつもりですが、この寄稿の場を借りましてお礼を申し上げますと共に皆様温かい気持ちに沿うべく努力し一日も早い復興をお約束致します。ありがとうございました。(渡部 豊)

大33回

今回の阪神・淡路大震災で被害を被られた会員に対し、同窓会より集められた見舞金の配分方法について燦美会同窓会兵庫支部が決定しました経緯をこの紙面をお借りしてご報告致します。

まず、2月の総会にて燦美会本会計より被災者1名につき3万円、計約50万円を拠出し、前記した見舞金の配分方法は兵庫県支部に一任すると決定致しました。

そこで、34名在籍する兵庫県会員に対して3月上旬に郵便によって配分方法の記名投票と被害状況の自己申告をして戴きました。

その配分案の概略は以下のとおりでした

- ① なんらかのかたちで50万円分以上被害があった者全員に均等配分する。
- ② 半壊(自己・親関係なく診療所、自宅どちらか)以上の罹災者に均等配分する。
- ③ 見舞金をプールして必要なときに必要な者が無利子で借りれるようにする。
- ④ 1月末時点での診療所、自宅の全半壊を各分類してその指数によって配分する。
- ⑤ 2月末時点での売りあげ、自己資産減分により各分類しその指数によって配分する。
- ⑥ 次の分類にわけて

- I 住居または診療所の全半壊*₁・全半焼またはこれに準ずる被災*₄をされた方
- II 診療所は無事だが、水道電気が使えないため長時間*₂にわたり診療不能であった方
- III 診療所は無事だが、周辺部の被災が著しく、診療困難であった方(診療可能だが著しい収入減*₃の方)

*₁・*₂・*₃・*₄については変動域があるので支部代表が被災状況の調査結果と募集金額からある程度、後で定義させていただく。

配分方法はIに該当する方をAランク、IIとIIIのみ該当する方をBランクとしてA:B=2:1か3:1で配分する。

結果は①7 ②11 ③5 ④10 ⑤7 ⑥12(中原に委任した6票は除く)でした。

決定は⑥の配分案となり

*₁は損害額が300万円以下のものはBランク

とする。

- ・₂は14日以上
- ・₃は1月2月分で計400万円以上の減収の者
- ・₄は資産が物損価格において1,000万円以上の減少した者

均等配分と比例配分がほぼ真2つなのでA:Bを2:1にし②の半壊以上の均等割が多かったことにより少し基準を上げました。

支給者は以下のとおりです。

- Aランク 吉川広志、竹島千里、清水雅子
西原一雄、松井良生、西條真吾
米田 修、栗田隆史、川井典子
- Bランク 藤原昌子、足立 優、吉川周志
山田功

最後になりましたが、見舞金を送ってくださった同窓の方々に厚くお礼を申し上げますと共に、被災された方々が1日も早く平常に戻られることを衷心よりお祈り申し上げます。

(燦美会兵庫県支部代表 中原範人)

お知らせ

学術講演会開催予告

日 時	平成8年2月3日(土)	午後3時
場 所	兵庫県医師会館	5Fホール
演 題	「顎骨炎症の読影」	
講 師	岡山大学歯学部 歯科放射線学講座 教授 岸 幹二 氏	

第39回 大阪歯科大学兵庫県同窓会会員大会

日 時	平成8年8月24日(土)	午後2時
場 所	新神戸オリエンタルホテル	
当 番	西宮分会	

新病院の工事経過と現状

本年1月に着工した新病院の工事は、去る1月12日、大学及び施工業者等関係者多数出席のもと起工式も無事執り行われ、本格的にスタートしている。

工事着工と同時に敷地内全域を調査したところ、ここは大規模な地中障害物（埋蔵文化財発掘調査時に発見された石垣「豊臣時代の代表的な穴太（あのを）積」）と築造用の大きな御影石の原石が埋没されている事が判明した。

この原石は、大阪城再建時石垣築造用として、当時の出雲松江藩堀尾忠張家の刻印石であり、大きい物では、2m×1.5m（=3t）程度もあり、これらが埋蔵文化財発掘調査場所以外の場所に残存し、石垣と併せて工事の大きな障害となった。

新病院の全工期日程は25.5ヵ月（平成7年1月12日～平成9年2月末日）にもおよぶものであるが、上記の地中障害撤去工事が発生したため、この工事の工法如何では完成時期がずれこむ危険が発生した。

従って、これを如何に安全かつ短期間にこの障害を撤去するかを種々検討の結果、日本全国で3台しかないというドイツ製の大型器械2台を投入し、フル回転で稼働させ、一般的には4ヵ月以上かかる工期を2.5ヵ月の短期間の工事で済ませ、去る4月中旬に無事撤去を完了した。

引き続き、山留め用コンクリート連続壁工事に着工し、約4ヵ月を費やし、この工事も8月末には全て完了した。そして9月より建物を支える杭地業工事を施工中で、工程は順調に予定通り進捗している。

なお、工事の施工に際し、施工業者は、近隣住民、通行される方の危険防止のためとして、外壁防護用フェンスを設置する他、週日の朝日新聞のコラム「青鉛筆」に本学の工事現場を囲う工事用フェンスとして掲載されている。

楠葉キャンパス

新附属病院の着工に遅れること数ヵ月、当大学楠葉キャンパスは今年4月14日に理事長・学長・佐川寛典他、81名の出席のもと、新学舎の永遠の繁栄と工事の安全を祈願して、厳粛に起工式が執り行われた後、工事をスタートした。

最初に、敷地周囲に「歯並び」をイメージしたとも思われる真っ白い仮囲いが設置され、次に設計・工事関係者の作業所事務所が隣接する旧テニスコート跡地に建てられた他、車両乗り入れ用のゲートや構内通行用の仮設道路などの整備が5月初旬に完成した。

5月中旬より、講義・実習Ⅰ・Ⅱと中央研究棟の工事に着工し、地下を構築するための山留め工事、更に並行して杭工事・掘削工事が進められ、7月初めには杭96本打込みが、また8月末日には地下部分の掘削も完了した。

現在は作業用の栈橋も架かり、上空から見ると、きっと大海をタンカーが進んでいるように見えると想像しているところであった。

この間、枚方市による埋蔵文化財の確認調査を行ったが、幸いにも当地からの文化財は発見されず、工事の進行に支障ないことが判明した。

一方、図書館・厚生棟、管理棟、大講堂の工事も8月から着工し、現在、杭・掘削工事が進行中で、この分で行くと各棟のも年内には地下のく体工事も完了し、来年になれば、地上にその有姿を見せ始めてくれる予定である。今年は、7月中旬までは、例年に比べ雨がが多く、工事工程への影響を心配したが、その後は晴天に恵まれたものの、猛暑に見舞われ、作業される人達の苦労は大変であったと想像するものである。

幸いこれまで一人の怪我もなく、現在は一日、約150人の作業員、約200台のコン車・ダンプ車が出入りし、工事は順調に進捗しており、来年末にはすばらしい新キャンパスの完成が期待されるものである。

（母校学内報から）

平成7年12月1日

発行所 大阪歯科大学兵庫県同窓会

神戸市中央区山本通5丁目7-18

電話 (078) 351-4181

編集発行人

志 築 照 和